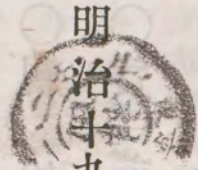


可認局遞驛



明治十九年十二月廿五日發兌

第壹年級

英吉利法律講義錄

第十五號

英吉利法律學校



目次

○組合法

英吉利法律講義録
法學士 松野貞一郎

○判決録

法科大學
卒業生 植村俊平

○論理學

文學士 坪井九馬三

○經濟學

駒井重格

○合衆國領事
裁判訴訟法

米國法律學士 シドモール

○親族法

(第十號ノ續キ)
法學士 山田喜之助

○質問

組合法

通知ヲ爲
スノ權

其名ヲ知ラレ居タルトキハ特別ニ其人ニ通知セサル可ラス
要スルニ組合員ノ責任ノ終ルニ付テハ通知ヲナスト云フコトハ肝要
ナリ而シテ各組合員ハ脱社ノ旨ヲ公告スルノ自由アリ若シ他組合員
カ之ヲ拒ムニ於テハ必要ナル助力ヲ裁判所ニ求ムルコトヲ得ヘシ例
ヘハ組合ノ一人脱社ノコトヲ新聞紙へ廣告セントスルモ他組合員之
ニ連名スルコトヲ拒ミタルトキハ裁判所ニ請願シテ連名セシムルコ
トヲ得ヘシ

第拾二回

解散廣告ノ效果ヲ論ス

解散廣告
ノ效果

解散廣告ノ效果ニハ二箇ノ例外アレトモ其ハ後ニ廻シ扱一旦此組合
ヲ解散スルカ又某組合員退社ノ趣ヲ世上ニ廣告スルトキハ此ニ組合
員各自ノ代理權ハ消滅スルニ至ル故ニ其後組合員ノ一人金錢ノ取引

之ニ反ス
ル判例

等ヲ爲ストモ他組合員ハ従前組合員タリシノ故ヲ以テ其責ニ任セス
 加之某組合員退社ノ後ハ他組合員カ舊組合ノ名ヲ以テ爲換手形、約束
 手形等ヲ作り又ハ裏書スルトモ同シク其責任ナキモノトス而シテ是
 等手形ノ日附退社以前ニ係ル場合ニ於テモ猶然リ且又其手形ハ退社
 以前ノ負債ヲ拂フ爲メニ退社員ノ名前ヲ列記シ作りタルモノニ付テ
 モ退社員ハ其責任ナシ尤モ判決例ヲ見レハ退社ノ廣告ヲ爲シタルニ
 モ拘ラス其以後ノ責任アリト定メタルモノナキニアラス然レトモ此
 等ハ他ニ責任ヲ負ハシムヘキ相當ノ理由アリテ判定セラレタルモノ
 ナレハ敢テ此原則ト背馳スルモノニハアラサルヘシ
 最初ニモ述ル如ク此レニハ二箇ノ例外アリ今其場合ヲ講セン
 第一例外 組合員ノ一人退社シテ直チニ其旨ヲ世上ニ廣告セリ然ル
 ニ猶其後モ世間ニ對シテ組合員ナリト思惟セラルヘキ所爲ヲ現ハセ

第一例外

第二例外

リ此ノ如キコトノアル以上ハ爲メニ責任ヲ負ハサル可カラス
第二例外 組合解散スルカ又ハ一人退社スルコトアルモ猶從來ノ殘
務ヲ取纏ムルニ必要ナル場合アリ此殘務取纏メノコトニ付テハ解散
或ハ退社後ト雖モ其責任存スルモノトス
以下右二箇例外ノ場合ニ付テノ例ヲ示サン

第一判例

(第一例外ノ場合) 組合員ノ一人既ニ其組合ヲ退キ其旨ヲ廣告シタル
ニモ拘ラス從來店頭ニ掲グル所ノ表札鑑板等ニ已レノ名義アルヲ書
キ換ヘスシテ其儘ニ爲シ置キタルコトノ如キハ即チ已レ未タ其組合
員ナリト世人ニ思惟セラルヘキ所爲アルモノナレハ從テ退社後ノコ
トニ付テモ責任アリト云フ例ヘハ甲ナル組合員アリ某組合ヲ退キ其
旨ヲ世上ニ廣告セリ其後殘組合員ハ甲ノ連名ヲ以テ一手形ヲ引キ受
ケ又甲ノ名義ヲ猶表札ニ掲ケ置タリ其裁判ニ曰ク此ノ如キ所爲アル

組合法

百十一

以上ハ甲者ハ退社ノ廣告ヲ爲シタルニモ拘ラス仍ホ手形ニ對シ其責任ヲ負フ可キナリト

然レトモ此判決例ニ付テハ一言スヘキコトアリ凡退社ノ廣告ヲ爲シタルニモ拘ラス其後ノ責任ヲ負フハ自ラ進テ組合員ト思惟セラルヘキ事ヲ爲シタル場合ナリ然ルニ甲ハ唯已レノ名義ヲ舊組合ニ於テ用ヒ居ルコトヲ差止ノス默シテ居タルマテニシテ別ニ進テ組合員ト思惟セラルヘキ所爲ヲナシタルニアラス故ニ此判決タル此場合ノ適例トナスヲ得サルヘシ

然レハ此場合ニ於テ如何ナルコトカ適例トナルカト云フニ例ヘハ此ニ甲乙丙三人ノ組合アリ甲ナル組合ノ一人脱社シ其旨ヲ廣告セリ其後乙丙ノ二人カ甲乙丙三人ノ名前ヲ以テ作りタル爲替手形ヲ丁ニ渡シタリ遇マ甲丁ニ會フ
丁カ手形ヲ受
 取ル前ノコト 甲丁ニ語りテ曰ク余ハ過般彼組

第二判例

殘務取纏

メノ爲メ

ニ要スル

代理權

合チ脱シタレトモ組合ハ猶余ノ名義ヲモ用ヒ居ルヘシト此時ハ甲退社ノ廣告ヲ爲シタルニモ拘ラス丁ニ對シテ右ノ如キコトヲ云フタルヲ以テ其責ヲ負ハサル可カラス故ニ其手形ヲ所持スル丁ハ右ノ三人ニ係リテ訴ヲ起スヲ得ヘシトノ判決アリタリ

(第二例外ノ場合) 組合解散シ其旨ヲ廣告スルモ直チニ其責任ノ終ルモノニアラス例ヘハ物ヲ買ヒテ未タ其代價ヲ拂ハサルトキ或ハ物ヲ賣リテ未タ其代金ヲ受取ラサル如キ場合ニ其殘務ヲ處分スル點ニ付テハ猶責任アリ從テ代理權アルモノトス斯ク殘務ヲ處分スルニ付テハ組合ノ權利義務存スルト云ヘハ簡單ナレトモ其區域タル如何ナル場合マテニ及フモノナリヤ聊カ困難ナキ能ハス凡テ權利義務ヲ連帶シテ有スルトキハ其中ノ一人其金ヲ支拂フノ責任又ハ受取ル可キ權利アリ又組合ヲ解散スルニ付テハ殘品ヲ賣リテ金ニ換ヘ以テ從來ノ

組合法

百十三

負債ヲ拂フコト抔ハ假令組合解散ノ後ナリトモ之ヲ爲シ得ヘキコト
 勿論ナリトス左レト組合解散ノ後必要ノ殘務トシテ取扱フ事柄ハ如
 何ナルモノニシテ又如何ナル點マテ組合ニ權義ヲ負ハシムルモノナ
 リヤ是レ議論ノアルコトナリトス先ツ一判決例ヲ示サンニ茲ニ株券
 ノ仲買ヲ營業トスル組合アリ或ル銀行ノ株券ヲ買取ルノ約定ヲ成シ
 未タ其代金ヲ支拂ハスシテ解散シ其旨ヲ銀行ニ通知シタリ其後組合
 員ノ一人ハ其代金ヲ支拂フ能ハサルノ故ヲ以テ一旦買取リシ株券ヲ
 銀行ニ差入レタリ然ルニ他ノ組合員ハ此抵當ハ解散後組合員一人ノ
 獨斷ニ係ルヲ以テ銀行ハ他組合員ニ對シテハ抵當トシテ差押フルノ
 權利ナシト主張セリ然レトモ此抵當タル該組合カ營業繼續中ニ負ヒ
 シ所ノ義務ヲ盡ス爲メニ差入レタルモノニシテ解散前ヨリ引續キ未
 タ完結セサル取引ヲ解散後完結セシモノナレハ他ノ組合員ト雖モ暗

廣告ノ方
法

黙ニ承諾シタルモノト看做スヲ得ヘキナリ故ニ其抵當タル組合員全體ニ對シ有効ノモノナリト判決セラレタルコトアリ此判決ヲ約言スレハ組合ノ權利義務ハ其解散ニ由リテ消滅スト雖モ未タ完結セサル業務ニ付テハ猶引續キ相當ニ之ヲ取纏ムルノ權理アリ又其責任アルモノト云フニ他ナラス然レトモ若シ右ノ場合ニ於テ組合員ノ一人カ代金ノ抵當トシテ株券ヲ差入レスシテ新ニ約束手形或ハ爲換手形ヲ作リテ代金ノ支拂ニ充テタルトキハ他ノ組合員ハ其手形又ハ之ヲ以テ得タル金額ニ付テハ責任ナキモノトス何トナレハ之レ組合員權外ノ所爲タルコト明カナレハナリ

廣告ノ方法ヲ論ス

前回ニ於テ既ニ講述セル如ク非役組合員ナルモノハ自己ノ名義ヲ出スモノニアラサルヲ以テ世間ニ此人アルヲ知ラサルハ勿論ノコトナ

リ故チ以テ非役組合員ノ退社スル増合ニハ敢テ廣告ヲ要セサレトモ
普通組合ノ場合ニ於テハ組合員退社ノ廣告又ハ組合解散ノ廣告ハ必
ス之ヲ爲サ、ル可カラス而シテ此廣告ハ左ノ二種ニ區別シテ爲スチ
要ス

其一 世間一般ニ對スル廣告

其二 取引先キニ對スル廣告

新聞紙上

ノ廣告及
其他ノ方
法

其一 英國ニ付テ云ハ「ガゼット」新聞ニ最モ重モナル廣告セハ世間
一般ニ對シテ爲シタルモノトナス故ニ實際其新聞ヲ見サル者ニ對シ
テモ仍ホ解散ノ廣告ヲ爲シタルノ効アルモノトス若シ夫レ他ノ諸新
聞紙ニ廣告スルモ其人現ニ之ヲ見サルトキハ其効ナキモノトス左レ
ト其人平常現ニ其新聞ヲ購讀シ居ルノ事實アルトキハ其廣告ヲ見タ
ルノ證據トナルヘシ

此新聞紙上ニ廣告スルコトタル敢テ法律ニテ命シタルモノニアラス
唯最モ多ク行ハル、處ノモノヲ舉ケタルナリ故ニ其廣告ノ方法タル
引札ナリ又ハ雜誌ナリ又ハ店頭ニ標札ヲ掲ル等其他如何ナル方法ナ
ルヲ問ハス唯周ク知ラシムルヲ以テ足レリトス

其二 取引先ニ付テハ右ト異リ唯ガゼツト新聞紙ニ廣告スルノミヲ
以テ足レリトセス特ニ通知スルヲ要ス左レト其取引先ノ者現ニ之ヲ
見タリト云フノ證據アルトキハ更ラニ通知セシト同様ノ効アルモノ
トス即チ其方法タル如何ナルトモ之ヲ知リタルノ事實サヘアレハ可
ナリ

上來述ル所ハ則チ組合ノ解散又ハ組合員退社後ニ生セシ事柄ニ付テ
負フ場合ノ責任ナリ

組合營業中ニ負フタル責任ノ終ル場合ヲ論ス

已ニ負フ
タル責任
ノ終期

凡ソ人一旦義務ヲ負フ後チ其義務ヲ盡シタリト云フトキハ之レカ言
チ爲ス者ハ其證據ヲ出サ、ル可カラス之ト同シク組合員ノ負フ所ノ
義務ノ消滅シタリト云フ者ハ先ツ之ヲ證セサル可カラス而シテ其義
務タル何時終ルモノナルト云フニ左ノ條項ニ付キ論究スルヲ便利ナ
リトス

(一) 債主ノ左右シ得ヘカラサル事件、組合員ノ死去又ハ身代限ノ如
シ

(二) 其責任ヲ負フ所ノ組合員ト債主間トノ取引約定等

(三) 其他ノ組合員ト債主トノ取引約定等

(四) 時期ノ經過

(第一) 第一ノ場合例ヘハ組合員ノ死去又ハ身代限ヲ爲ス如キ場合ニ
於テ其レカ爲メ責任ノ終ルコトニ付テハ後回ニ譲リテ此ニ贅セス

連帶義務
ノ性質

第二 第二ノ場合ハ双方定ムル所ノ契約ニ從テ權利義務モ亦定ルモ
ノナレハ別ニ論スルコトナシ
(第三) (第四) 此場合ハ茲ニ論述セントスル處ノモノニシテ凡ソ連帶義
務ノ性質ヨリ云フトキハ義務者中ノ一人カ連帶義務ノ全部ヲ盡シタ
ルトキハ他ノ義務者ハ之ニ依リテ義務ヲ免レ再ヒ請求セラル、コト
ナシ故ニ一旦連帶義務者ノ一人カ義務ノ全部ヲ盡セシトキハ其効力
全体ニ有シ債主負債主間ニ存在スル全部ノ權利義務ヲ消滅スルモノ
トス然レトモ義務者ノ内一人ニ限リテ請求スル能ハサル事柄ノ起ル
トモ其レカ爲メ決シテ義務者全體ノ義務ハ消滅スルコトナシ例ヘハ
義務者ノ一人身代限ヲナシ免除ノ處分ヲ受クルモ他ノ義務者ニ對ス
ル債主ハ消滅セス又權利者カ義務者ノ一人ニ對シ訴求セサルコト
ヲ約スルモ爲メニ他ノ義務者ニ對シテ義務ヲ得ルノ權利ヲ失ハス又

連帶義務者ノ一人カ負債ノ一部ヲ拂フモ爲メニ他ノ義務者カ殘部ヲ拂フノ義務ヲ免レタリトスルヲ得サルヘシ今此連帶義務ノ性質ヨリシテ組合員カ已ニ負フタル責任又ハ義務免除ノコトヲ論セントスルニ付テハ左ノ條項ニ從ヒ講述スヘシ

其一 辨償

其二 解放

其三 負債主並抵當物件ノ更改

其四 時期ノ經過

第十三回

(第一) 辨償

組合員ノ一人カ組合ノ負債ヲ辨償スレハ則チ其負債ヲ消滅スルモノニシテ他ノ組合員モ悉ク其義務ヲ免ルヘシ尤モ其之ヲ辨償スルヤ組

組合員ノ一人カ組
合ノ負債
ヲ辨償ス
ルコト

合ノ負債ヲ拂フ心得ニテ爲シタルモノナラサルヘカラス又組合ノ所
有金ヲ以テ拂フタルモノナラサル可ラス他言スレハ組合員ノ一人カ
組合ノ負債ヲ拂フ目的ニテ支拂ヒタルトキカ又ハ組合ノ所有金ヲ以
テ支拂フタルトキハ組合ノ義務ヲ盡シタルモノトシテ負債全部ノ義
務解散スヘシ故ニ組合ニ於テ負債ヲ償却シ能ハサルヨリ止ムヲ得ス
組合員ノ一人カ自己所有ノ金ヲ以テ拂フタルトキハ其人ハ組合ニ對
シテ一時ノ立替ヲ爲シタル心得ニテ固ヨリ組合ノ負債ヲ償却スル目
的ニ非サレハ此時ハ組合ノ負債消滅スルコト無シ此場合ニ於テハ債
主ハ支拂ヲ爲シタル組合員ノ爲メニ組合ニ對シ請求スルコトヲ得ル
モノナリ即チ余若シ友人ノ爲メニ金ヲ支拂フコトアルトキ全ク一時
立替ヲ爲シタル心得ナレハ後日債主ハ余ノ爲メニ負債主ヲ相手取り
訴ヲ起スコトヲモ得ルモノナリ

組合ノ所
有金ヲ以
テ組合員
ノ一分支
拂ヲナシ
タルトキ
ノ法律上
ノ推定

新組合ノ
爲シタル
辨償ハ舊
組合ヲ解
散ス

又債主ノ組合ト組合員ト其各々債主權ヲ有スルトキ組合員即チ負債
主ノ一人カ其何レノ負債ニ充ツ可キ旨ヲ述ヘスシテ金ヲ返濟シタル
トキ其金ニシテ組合ノ所有金ヨリ出テシトキハ法律上ニテハ其金ハ
組合ノ負債ヲ拂フタルモノト認ム
凡ソ組合ニ拘ハラズ人ノ爲メニ負債ヲ拂フトキ債主承諾シテ之ヲ受
取リ負債主モ亦タ別ニ故障ヲ言ハサルトキハ其支拂ノ效アリテ權利
義務ハ茲ニ全ク解散スルニ至ル組合ニ於テモ之ト同様ノ理ニシテ組
合員ノ出入アルトキハ其都度新ナル組合ヲ造ルモノナルカ其新組合
員カ舊組合ノ負債ニ付金錢ノ支拂ヲ爲ストキハ其負債ニ付債主及ヒ
舊組合ノ間ニ於テ其權利義務消滅ス然レトモ若シ新組合ハ只舊組合
ノ負債ヲ一時立替辨償シタルモノニシテ之ヲ全ク消滅セシムル目的
ニ非サルコトヲ認メ得ルノ徵憑アレハ債主ハ新組合ノ爲メ舊組合ヲ

訴へ請求スルコトヲ得ルモノニシテ舊組合ノ義務ハ未タ消滅セサル
可キナリ而シテ辨償ニ由リ義務ノ消散スルコトニ付テハ辨償充用ノ
コトヲ知ルヲ要ス故ニ是ヨリ先ツ辨償充用ノ規則ノ大体ヲ陳述セン
而シテ此規則ヲ分テ八條トス

第一條 人數口ノ負債アルトキ其負債主ハ自ラ好ム所ノ負債

ニ充テ支拂ヲ爲スコトヲ得但其全部ヲ支拂フコトヲ
要ス

第二條 然レトモ負債主ハ其負債ヲ一時ニ拂フモノニシテ一

ノ負債ヲ數度ニ分チ拂ハント要求スルコト能ハス但
債主ノ承諾ヲ經タル後ナレハ隨意ナリトス

第三條 第一條ニ云フカ如ク數口アルトキハ其何レニ拂フハ

負債主ノ撰擇ニ任スレトモ此事ハ支拂ノ當時定メ置

カサル可ラス決シテ後日ニ至リ撰擇スルコト能ハサルモノトス

第四條

數口アル負債ノ中其何レニ拂フタルモノナリヤ負債ノ性質支拂ノ情况方法等ニ由リテ推定スルコトアリ

第五條

數口擇一ノ權アル負債主カ支拂ノ時ニ於テ其何レノ負債ニ充用スルコトヲ定メサルトキハ債主ニ於テ之ヲ撰定スルコトヲ得

第六條

債主ハ何レノ時ニ於テモ撰擇ノ權ヲ行フコトヲ得但シ一旦撰擇シ其旨ヲ負債主ニ通知シタル後ハ再ヒ之ヲ變改ス可ラス

第七條

債主ニ撰擇ノ權アル時ハ出訴期限經過セサルヨリモ寧口經過シタル負債ニ保證又ハ抵當付キノ負債ヨリ

モ寧口單獨ノ負債ニ利息附ノ負債ヨリモ寧口無利息
ノ負債ニ充テ辨償ヲ受取ルコトヲ得然レトモ債主ノ
充テントスル負債ハ支拂ノ當時現ニ存在スルモノニ
シテ其金額確定シ法律上訴求シ得ヘキモノナルコト
ヲ要セス(出訴期限經過ヲ除キ)

第八條

反對ノ證據ナキトキハ法律ハ寧口負債主ノ撰擇權ヲ
推認シ之ニ抵觸スル債主ノ撰擇權ハ逐斥セラルヘシ

例ヘハ利金ハ先ツ元金ヨリモ前ニ拂ハレタルモノト
推認スヘク又地所其他物品ヲ抵當ニ入レテ金ヲ借り
タルモノアルトキ其抵當物件ノ賣却代金ハ其抵當附
ノ借金ニ拂フタルモノト推認スヘク又或ル人ニ屬ス
ル處ノ金圓ハ其人ノ負債ニ充テ支拂フタルモノト推

認スヘク又引續キタル唯一ノ計算アレハ先ツ初頭記
載ノ順序ニ支拂ハレタルモノト推認スヘシ
以上第八條ハ辨償充用ノ規則ニシテ之ヲ以テ組合負債辨償ノ場合ニ
モ適用シ得ルモノナリ今茲ニ組合ノ負債辨償ノコトニ付著名ナル判
決例アルヲ以テ左ニ掲ケン

〔第一判例〕 クレイトンノ訴件

〔事實〕 クレイトン氏ハ曾テ銀行ヲ營業トスル五人ノ組合ニ金若干圓
ヲ預ケ置キ當ニ入用ノトキハ入用分丈ケ引出シ他ヨリノ支入金杯ア
レハ又之ヲ預クル等一ノ通帳ヲ以テ其銀行ト金錢ノ出入ヲナシ居リ
タリ然ルニ其銀行組合ノ一人デウエーンナル者病死セリ然レトモ殘
組員ハ從前ノ如ク引續キ營業セルヲ以テ氏モ茲ニ計算モ改メス從
來ノ如ク常ニ前ノ通帳ヲ以テ金ノ出入ヲ爲シ居タリ其後銀行ハ破産

判例

セルヲ以テ從來ノ計算ヲ爲セシニ曩日組合ノ一人死セシトキノ計算ニハ一千七百十三圓ノ貸分トナリタリ其後銀行身代限ニ至ル迄ニハ氏ノ貸分ハ前日ニ倍セリ然レトモデウエーン病死後身代限ニ至ル迄ニ銀行ヨリクレイトンヘ拂込ミタル金額即チ氏カ引出シタル金額ハ右一千七百十三圓ニ超過セリ此場合ニ於テクレイトンハデウエーンノ遺産ニ對シ右ノ一千七百十三圓ノ支拂ヲ要求スル能ハスト判定セラレタリ個ハデウエーン死去後ニ銀行カ拂込ミタル金額ヲ以テ已ニ右ノ一千七百十三圓ハ償却シ終リタレハナリ

(第二判例) ストルンデール訴ハンキンソン

(事實) 此ニ雜貨商アリ問屋ヨリ送り込ミタル物品ノ代金ヲ支拂ハスシテ病没セリ然ルニ其妻ハ猶ホ夫ノ商業ヲ繼キ従前ノ如ク問屋ヨリ物品ヲ受取り居レリ但夫病没ノ時ニ問屋ヘ支拂フヘキ金額ハ百五十

放義務ノ釋
Release

六圓ニシテ病没後妻カ追々ニ問屋ヘ支拂ヒタル金額ハ之ニ超過スルモ問屋ヨリ妻カ受取タル物品ノ代金ニハ引足ラサリシ此場合ニ於テ問屋ハ夫ノ遺産ヲ以テ右百五十六圓ノ支拂ヲ受ケント要求スル能ハスト判定セラレタリ是レ右百五十六圓ハ已ニ妻カ支拂ヒタル金額ニテ償却セラレ居ルヲ以テナリ

(第二) 義務ノ釋放

一般契約ノ原理ニ由リテモ連帶義務者ノ一人ヲ釋放スレハ他ニ殊別ノ狀況アラサル以上ハ其効力ハ全體ニ及フモノナリ故ニ組合ノ負債ニ付組合員ノ一人ヲ解放スレハ他ノ組合員ヲモ同シク解放シタルノ効果ヲ生スヘシ
此ノ點ニ付キ注意ス可キハ釋放ナルコト、義務履行ノ訴ヲ起サハルヘシトノ契約トハ互ニ之ヲ混同ス可カラス尤モ此契約ハ權利者義務

左レト甲ハ固ヨリ窮民ニシテ到底之ヲ拂フコト能ハサルヲ以テハリ
スハ原告ノ地位ニ立チプリスコト被告トナシテ訴訟入費取戻ノ訴
ヲ起シタリ其理由ハ原告ノ訴訟入費ヲ失ヒタルハ全ク被告カ甲ヲ援
ケテ起訴セシメシニ因ルヲ以テナリ

判決

(判決) 判事曰ク救恤即チ窮民ヲ助ケント欲シテ他人ノ訴訟ヲ扶助シ

タルコトハ充分ノ抗辯トナルナリ尤モ甲ヲ扶助スルニ先チ被告ニ於
テ能ク其事實ヲ考ヘシナハ或ハ訴訟ヲ起スニ至ラサリシナランニ被
告ハ詳カニ之ヲ探索セスシテ直ニ起訴ヲ助ケシト雖モ裁判所ハ其不
注意ヲ問ハス概シテ救恤ノ心ヨリ起リシ訴訟扶助ヲ以テ援訴ト爲ス
コト能ハス故ニ原告ノ申分相立チ難シト

附言

因曰元來援訴ノ問題ハ實際餘リ起ラサルモノナレトモ援訴ヲ以テ
不法ノ所爲トナス可キハ明白ナリ但援訴ノコトタル其區域ヲ如何

ナル事實マテニ及ス可キヤ實ニ因難ナルモノナリ本件ノ如キハ即チ援訴ノ區域ヲ定ムルノ一端トナルヘシ

[第三] 口讒ノ事件

ブルカー對コフキン

Brooker V. Coffin (3 Johns. 183; 1 Am. L. C. 76)

一千八百〇九年 紐育上等裁判所

(事實) 本訴ニ於テ原告ハ被告ノ爲メニ口讒セラレタリトナス言語ハ

次下ノ如シ

(一) 原告ハ普通ノ娼妓ナリ余ハ之ヲ證明スルコトヲ得 (二) 原告ハ他人ノ托ヲ受ケテ其孕メル子供ハ余ノ胤ナルコトヲ誓ヘリ (三) 原告ハ殆ト牢屋ニ入レラレントセリ云々

(訴答) 原告ノ申立 原告ハ本訴ノ理由ヲ述ヘテ曰ク口頭ノ言語ヲ以

テ他人ニ犯罪アルコトヲ申立タルトキニ若シ其事蹟眞實ニシテ被讒者ハ法律上及ヒ道德上ニ罪ヲ得ルモノナルトキハ被讒者ニ實際ノ損害ナキモ尙ホ之ヲ申立テタル人ニハ口讒トシテ損害賠償ノ責任アリトス是レ私犯法ノ原則ナリ然リ而シテ當時ノ法律ニ由レハ普通ノ娼妓無藉人、乞食、輕業師、占者、人相見等ヲ以テ亂民トシ治安判事ハ之ヲ捕縛シテ懲治監内ニ入ル、コトヲ命セリ左レハ今原告ニ對シ普通娼妓ナリト云ヒシハ正シク右ノ法律ニ據リテ犯罪トナルヘキコトヲ申立タルモノナリ是レ法律上及ヒ道德上ノ犯罪ヲ言ヒ掛ケタルモノナレハ被告ハ私犯法上ノ責任アルモノナリト

被告ノ答辨、被告曰若シモ一婦女子ニ對シ普通ノ娼妓ト云ヒタルカ爲メニ口讒ノ責任アルモノトスレハ或人ヲ以テ輕業師又ハ占者ト云フモ亦口讒トナルニ至ラン何トナレハ法律上娼妓ヲ亂民トナスト同

判決

様ニ占者モ亦亂民ナリト定メタレハナリ又等シク或人ヲ指シテ人相見又ハ乞食ナリト云フモ然ルヘシ然レトモ斯ノ如キコトヲ以テ直ニ口讒トナサントスルノ論者ハ必ス無カル可シ又曰單ニ原告ノ子供ハ被告ノ胤ニ因ルト誓ヒタリト云ヒタルノミニテハ未タ口讒トナスニ足ラス何トナレハ其事實詳カナラスシテ孰レノ子供ヲ指スヤ又何レノ時ニ其胤ヲ留メシヤヲ明カニセサルヲ以テナリ

(判決) 判事曰茲ニ他人ニ對シテ犯罪ヲ言ヒ掛クル者アリ若シ其事ニシテ眞實ナランニハ大陪審官ノ爲メニ起訴セラル可キ犯罪ニシテ其事柄タルヤ道德上ノ耻辱ヲ含ミ又加辱ノ刑罰ニ當ル可キモノナラハ假令實際ノ損害ナクトモ唯其言ヒ掛ケラレタル口上ノミニテ口讒ヲ構成スルニ至ラン必竟其言ヒ掛ケタル犯罪ハ大陪審官ノ起訴スヘキ

命題ニ付テ一言センニ

凡テノ甲ハ乙ナリ

ト之ヲ反定スル時ハ(一)何等ノ甲モ(非乙)ニアラスト云フニ至ル之ヲ直
 轉スルトキハ(二)何等ノ(非乙)モ甲ニアラストナル之ヲ反定スルトキハ
 (三)凡テノ(非乙)ハ(非甲)ナリトナル之ヲ加限轉換セハ(四)二三ノ(非甲)ハ(非
 乙)ナリトナル之ヲ反定セハ(五)二三ノ(非甲)ハ乙ニアラスト云フニ復ル
 是レ此法ノ定義ニ協ヘル新命題ナリ即チ[ア]ヨリ[オ]ヲ得タルモノナリ
 又同様ニ[エ]ヨリ[イ]ヲ得ヘシ即チ何等ノ甲モ乙ニ非ストアルヨリ二三
 ノ(非甲)ハ乙ナリト云フヲ得此二類ヨリ外ニ得ヘキモノハナシ今適例
 チ舉テ講述スヘシ

[ア]ノ命題ヨリ推續シテ[オ]ノ命題ヲ得即チ凡テノ甲ハ乙ナリト云フ[ア]
 ノ命題ヨリシテ二三ノ(非甲)ハ乙ニ非スト云フ[オ]ノ命題ヲ得又[エ]ヨリ

Immediate inference
by added determinant

〔イ〕ヲ得ヘキナリ
 例ヘハ日本人ハ亞細亞人種ナリト云フ〔ア〕ノ命題ヨリ二三ノ日本人ニ
 アラサルモノハ亞細亞人種ニ非スト云フヲ得ヘシ今此ノ日本人ニ非
 ル者トハ之ヲ論理上ニテ云フトキハ木、白墨、犬苟モ日本人ト云フ名ヲ
 附スヘカヲサルモノハ日本人ニアラサルモノナリ此ニ凡テノ日本人
 ニアラサル者ハ亞細亞人種ニ非スト云フコトヲ得ルカ曰否ラス是レ
 二三ノ日本人ニ非ル者云々ト格別ニ記シタルナリ以テ〔ア〕ヨリ〔オ〕ヲ得
 ヘキヲ知ルヘシ之レト等シク〔エ〕ヨリ〔イ〕ヲ得ヘキナリ例ヘハ腐敗ノ魚
 ハ食フ可カラストアルヨリ新鮮ナル魚ハ食フ可シトアルヲ得ヘシト
 スル者實ニ多シ然レトモ新鮮ナリトテ元來惡キモノアリ故ニ論理上
 ニテ或ル新鮮ナル魚ハ食フ可シト云フヲ得ヘキノミ

第五項 係辭堆續

係辭推續トハ茲ニ一ノ命題アラハ其命題ニ主賓位共ニ同シ形容詞ヲ
加ヘ得ヘキモノヲ云フ例ヘハ假リニ此形容詞ヲ平假名ノ「イ」ニテ示セ
ハ「凡テノ甲ハ乙ナリ」ト云フ命題ハ「凡テノ(イ)甲ハ(イ)乙ナリ」トナルヘシ
是レ則チ係辭推續命題ナリ此法ハ決シテ濫用ス可カラス例ヘハ「裏店
ハ家ナリ」トアルニ廣大ノ形容詞ヲ附ケ「廣大ナル裏店ハ廣大ナル家ナ
リ」ト云フトキハ不都合ナリ何トナレハ裏店ハ九尺貳間ヲ通例トスル
モノナレハ廣大ノ家トハ大ニ異ナレハナリ故ニ此廣大ト云フ文字ヲ
削リ換フルニ汚穢ノ辭ヲ以テシ「汚穢ナル裏店ハ汚穢ナル家ナリ」ト云
ハ、然ル可キコトナリ元來論理學ハ人ノ與ヘタル事實ヲ審査スルモ
ノナレハ論理學者ニ於テ濫ニ形容詞ヲ附加スヘカラサルハ明カナリ
故ニ此法モ亦正當ニ論理學ノ取扱フヘキモノニ非ス唯世間ニ之ヲ爲
スモノ多キヲ以テ茲ニ一言シ置クナリ

第三篇 論式

第一章 論式説明

此三日本人ハ亞細亞人ナリ、東京人ハ日本人ナリ、故ニ東京人ハ亞細亞人ナリトアルヲ以テ論ト爲シ其組織ヲ考フルニ該論中ニハ同様ノ語多クアリテ自然ニ法則アルモノ、如シ是論理ノ法式アル所以ナリ日本人ト云フコトハ第一ト第二命題トニアリテ主賓位ノ何レカヲ占ム亞細亞人ト云フコトハ第二ト第三トニアリテ何レニテモ賓位ニアリ東京人ト云フコトハ第二ト第三トニアリテ何レニテモ主位ニアリ故ニ一議論ヲナスニハ三語ヲ要ス勿論此ニハ日本人、東京人、亞細亞人トアレトモ是ハ何ニセヨ一ノ纏リタルコトナレハ可ナリ其有形ナルト無形ナルトハ論外ナリ又此論理ヲ見ルニ第一、第二、第三命題アリ故ニ論ハ三命題三語ヲ以テ組織スルモノナリ此ニ其名稱ヲ示サン

¹³Major premise or Sumption
¹²Minor " " or Subsumption
¹⁵Conclusion
¹⁴Premises.

第一命題 提綱

第二命題 副案

第三命題 斷案

提案

第一命題ハ何等ノ場合ニアリテモ其場合ノ原則ニシテ衆人ノ條規ト
 シテ遵奉スル規則ナリトス第二ハ目前ニ見ル事柄ニシテ第三ハ結局
 即チ論斷ナリ又三語ノ中斷案ニナキモノヲ通常中間名辭ト云フ蓋シ
 範圍ノ中間ニ在ルト云フ意味ニアラス中間ニ立テ周旋スルノ義ナリ
 他言スレハ媒介ヲ爲スノ語ナリ故ニ余ハ之ヲ稱シテ媒語ト云フ次ニ
 第一命題ノ中ニアリテ媒語ニアラサルモノ即チ斷案ノ賓位ニアル語
 チち統語ト云フ次ニ第二ノ命題ニアリテ第三ニ現ハル、モノ即チ斷案
 ノ主位ニナリ居ルモノヲり從語ト稱ス今此議論ヲ圖ニテ示サハ左ノ如
 グナルヘシ

Middle term
 Major term
 Minor term

第一 日本人ハ亞細亞人ナリ [ア]

第二 東京人ハ日本人ナリ [ア]

第三 故ニ東京人ハ亞細亞人ナリ [ア]

第一

圖一



第二

圖二



第三

圖三



斯ノ如クナルヲ以テ第三ニ於テノ語ノ正シキコト知ル可キナリ
 此場合ニ於テ亞細亞人ト云フ統語ハ廣クシテ從語ハ狹シ媒語ハ其中
 間ニ立テリ今又少シ議論ヲ換ヘテ説明センニ

第一 日本人ハ亞細亞人ナリ [ア]

第二 或ル東京ノ住民ハ亞細亞人ニ非ス [オ]

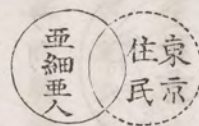
第三 故ニ或ル東京ノ住民ハ日本人ニ非ス [オ]

此議論ハ「ア」「オ」ノ命題ヨリ成立ツモノナリ左ニ之ヲ圖セシ

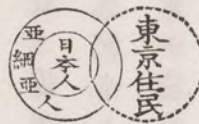
第一圖



第二圖



第三圖



此ヲ以テ第三ノ命題ヲ得此場合ニハ東京ノ住民ナルモノハ如何ニ其
 範圍廣大ナルモ差支ナシ即チ從語ハ最大ナルモ可ナリ而シテ亞細亞
 人ハ之ニ次クヘク日本人ナルモノハ最小ナルヘシ

又別議論ヲ與ヘンニ(一)或ル日本人ハ洋書ヲ讀マス(オ)(二)日本人ハ亞細
 亞人ナリ(ア)(三)故ニ或ル亞細亞人ハ洋書ヲ讀マスト此論ハ確實ニシテ
 一點ノ攻撃ヲモ容ル、所ナキナリ

右ノ如ク辭ノ位置ハ如何ニ變更スルモ差支ナク決シテ其本一定シテ
 動カス可カラサルモノニ非サルナリ今此論ヲ圖セハ

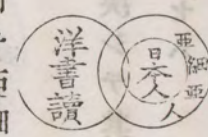
第一圖



第二圖



第三圖



故ニ第三ニ於テ或ル亞細亞人種ハ洋書ヲ讀マス即チ亞細亞人ト洋書
 讀トハ大ニシテ日本人ハ小ナリ而シテ亞細亞人ト洋書讀トハ範圍ノ
 廣狹相定マラサルモ差問ナシ唯日本人ニシテ小ナレハ足レナリトス

第一 賢者ハ少シ
 第二 少キモノハ怪物ナリ
 第三 故ニ怪物ハ賢者ナリ

此關係ヲ圖スレハ左ノ如シ



衣食ヲ得ル能ハサルノ艱難ニ陷ルヲ以テ人民汲々努力倦マス積テ大成スルニ至ルモノナラン猶ホ牛ハ行步遅々タレトモ怠ラサルトキハ千里ノ程ヲ行クニ難カラサルカ如シ然レトモ天惠薄キノ極モ亦不可ナリ北極地方ノ如キ如何ニ人民ハ勞働スルモ人力ヲ以テ需用ヲ満足スルノ望ナク自暴自棄シテ却テ懶惰ニ陥リ開明ノ域ニ進歩スルヲ得ス由是觀之ハ吾人温帶ノ間ニアルモノハ却テ最上ノ天惠ヲ得タルモノナリト云フモ決シテ失當ノ言ニアラサルヘシ

尙ホ國ノ地形ハ動植物ニ關スルノミナラス人民ノ性質ニ關スルモノニシテ開明ノ發達ニハ關係少カラス地形ノ萬象ヲ備エテ人民ノ思想ヲ發達セシムルニ便ナルハ蓋シ島國ヲ最トス

合衆國西部ノ原野ノ如ク瀛車ニ駕シテ終日奔馳スルモ殆ント青山ヲ見ス水流ニ會セス日ハ東野ニ出テ、西野ニ沒スル如キ地形ハ現象單

勞力ヲ論ス

一ニシテ人智ヲ開發スル手段ニ乏シキモノナリ詩人ハ山國ヨリ出テ
 平原ヨリ出テス是レ蓋シ性情ヲ開發スルノ方便ニ富ムカ故ナリ平
 原ヨリ出ツルモノハ獨リ天文家トス古昔ヨリ亞刺比亞埃及支那等ニ
 テ天文學ノ開ケタルハ地勢ノ然ラシムル所決シテ偶然ニアラサルナ
 リ亞弗利加ニ大沙漠アリ南亞米利加中央亞細亞ニ高原アリ皆人民ノ
 交通ヲ遮斷シ開明ノ進歩ヲ妨碍スルコト尠カラス之ニ反シ歐羅巴ハ
 山岳平地ノ列序最モ宜シキヲ得開明ノ發達ニ便ナルコトハ諸大州ノ
 及フ所ニアラス歐州ノ諸國ヲシテ今日ノ域ニ至ラシメタルハ蓋シ故
 ナキニアラサルナリ

勞力

勞力トハ生産ヲ爲スニ付キ人間カ費ス所ノ體力腦力ヲ云フモノニシ
 テ假令天然ノ力ヲ以テ如何程要用ノ貨物ヲ生出スルモ多少勞力ヲ加

別勞力ノ類

フルニアラサレハ人間ノ需用ニ供スルコトヲ得サルヘシ故ニ勞力ハ生産ニ必要不可欠ノモノナリ之ヲ類別スレハ左ノ如シ

第一發見及發明 Discoveries and inventions.

第二天然物ノ採取 Occupation of the spontaneous gifts of nature.

第三粗製品ノ生産 Production of raw materials.

第四製造 Transformation of raw materials.

第五貨物ノ分配 Distribution of goods.

第六材能智識ノ適用 Personal services.

第一發見トハ世ニ存在シテ未タ知レサルモノヲ見顯ハスコトニシテ發明トハ新タニ物ヲ組立ルカ又ハ新タナル方法ニ據リテ事物ノ用ヲ始ムルコトヲ云フ猶ホコロンバスハ亞米利加ヲ發見シタリガリシオハ望遠鏡ヲ發明シタリト云フガ如シ第二天然物ノ採取トハ天然ニ造

ラレタル物ヲ採取シテ人間ノ用ニ供スルヲ云フ例ヘハ野草ヲ採取シ
 テ食用ニ供シ或ハ深山ノ樹木ヲ伐採シテ材木ト爲シ以テ家屋ヲ建造
 シ或ハ石炭ヲ地中ヨリ掘採シ或ハ金銀ヲ礦山ヨリ得ル如キヲ謂フ第
 三粗製品ノ生産トハ農業ニシテ羊毛ヲ得ンカ爲メニ羊ヲ畜ヒ或ハ麻
 糸ヲ得ルカ爲メ麻ヲ殖エ絹糸ヲ得ンカ爲メ蠶ヲ養フカ如キヲ云フ第
 四製造トハ工業ニシテ粗製品ヲ以テ其形ヲ變スル猶ホ綿糸ヲ以テ木
 綿ヲ造リ木材ヲ以テ机ヲ製スルカ如シ第五貨物ノ分配トハ貨物カ生
 産セラル、モ只其場所ニ放棄セハ人間ノ用ヲ爲スコト甚小ナリ故ニ
 之ヲ需用アル所ニ分配スルヲ云フ即チ商業ナリ第六材能智識ノ適用
 トハ醫師教師官吏等カ其職務ヲ盡スヲ云フ
 以上第一第六即チ發見發明材能智識ニ係ル勞力ハ主トシテ腦力ヲ要
 ス尤モ幾分カ體力ヲ費サ、ルニアラス例ヘハ官吏ノ仕事ハ腦力ヲ要

スルノミナラス時トシテハ諸方ヲ奔走スルコトアリ又筆ヲ握リテ文字ヲ書クコトアリ算盤ヲ執リテ計算ヲナスコトアレトモ其主トスル所ハ腦力ヲ使用スルニ在リ第二、三、四、五ノ場合即チ天然物ノ採取粗製品ノ生産製造貨物ノ分配ニ至リテハ重ニ體力ヲ要スル者ニシテ例ヘハ深山ノ樹木ヲ伐採スルニモ斧越ヲ執リ刀鋸ヲ用ヒサレハ樹木ハ自然ト材木ト爲ルモノニアラス野芹海魚ノ如キ之ヲ摘ミ之ヲ漁スルニアラサレハ自然ニ臺所ニ入來スルモノニアラス其他農業ナリ製造ナリ將タ商業ナリ皆多少腕力ヲ費サ、レハ行ハル、モノニアラサルナリ今此數者ヲ總稱シテ經濟上ノ勞力トナス余輩カ今勞力ヲ論スルニハ體力ノ勞力ヲ主トスヘシ何トナレハ體力ノ勞力ノ經濟上重要ナルモノニシテ國家ノ生産上勞力ノ最大部分ハ皆體力ノ勞働ナレハナリ故ニ之ヲ研究セハ其一部分タル腦力ノ勞力ニ至リテハ自ラ其理ヲ明

ニスルヲ得ン

余輩カ前ニ掲ケタルハ勞力ノ種類ナレトモ其發達ノ順序モ亦右ノ次
第二由ルカ如シ何ニテモ發見或ハ發明アラサレハ人間ノ用ニ供セラ
ル、モノナルヤ否ヤヲ知ルヘカラス彼ノ伏羲神農等カ草木ヲ嘗メテ
藥タルヲ發見シ或ハ五穀ヲ殖ルコトヲ發明シタルニアラサレハ藥草
ヲ採ルモノナカルヘク農業ヲナスモノナカルヘシ故ニ發見又ハ發明
ヲ以テ勞力ノ第一着トス次ニ天然物ノ採取トス人間カ魚ノ食トナス
ヘキヲ知り獸皮ノ衣トナスヘキヲ覺ユレハ直チニ取リテ己レノ用ニ
供セント欲スルハ自然ノ勢ナレハナリ而シテ無智ノ民牛羊ノ牧スヘ
キヲ知ラス米麥ノ播殖スヘキヲ知ラス一ニ天然力ニ依頼シテ自然ノ
生産物ヲ取リテ供スルノ外他ナカルヘシ然レトモ人口次第ニ増加ス
ルトキハ到底天然物ニノミ依頼スルヲ得ス是ニ依テ牛羊ヲ畜ヒ穀物

ヲ殖ユルノ業起ル農業ヲ以テ諸種ノ物品ヲ生産スレハ之ヲ以テ諸ノ
物品ヲ製造スヘク生産盛ンナレハ其物産ヲ交換スルニ至ル尤モ製造
貿易ノコトハ農業ノ起ラサル以前ト雖モ存在スルヲ得ヘキモノニシ
テ多少之レ有リシナラン然レトモ製造業商業ト云フヘキ程ノモノハ
後ニ至リテ發達シタルハ疑ヲ容レサルナリ材能智識ノ如キモ亦然リ
發見發明モ亦材能智識ノ適用ニ外ナラサルヲ以テ當初ヨリ行ハレタ
ルコトナリ然レトモ材能智識ノ貴重セラレテ最モ盛ンニ行ハルハ世
ノ開明ニ進ミタル後ニアルモノニシテ其發達ノ順序ニ於テハ諸勞力
ノ最後ニ位スルモノナルヘシ
勞力ハ未開ノ世ニ於テハ兎角賤視セラレタルモノニシテ耕耘牧畜ノ
如キ多クハ奴隸ノ業トシ自由民ノ執ルヘキ業ニアラサルカ如ク考ヘ
タルモノナリ斯ノ如キ時代ニ在リテハ進テ勞力ヲ爲スモノナク止ム

ヲ得サルニアラサレハ勞力ヲ爲サ、ルヘシ幕政ノ頃大名ト唱ヘタル
モノハ室内ニ在リテ自己ノ帶スヘキ刀サヘ小姓ニ捧ケシメタリ從ツ
テ一身ノ舉動モ家來ノ手ヲ借ラサルコト殆ント無シト云フモ過言ニ
アラサルヘシ先ツ朝起キテ顔ヲ洗フニハ洗水ヲ供スルモノアリ頭髮
ヲ梳ラント欲セハ侍女アリテ梳リ食スルニハ膳ヲ供スルモノアリ衣
ヲ更ヘ足袋ヲ穿ツニ至ル迄皆他人ノ手ニ賴ラサルハ無キ程ナリ今日
ト雖モ我邦ニテ少シク生計ノ裕カナル家ニハ婢僕群ヲ爲シ終日無事
ニ苦ミ一人ノ勞働ハ一室ノ洒掃或ハ衣服ノ出納ニ止ルモノ少カラス
勞力ヲ疎ンスルモ亦甚矣ト云ヘシ然レトモ世ノ開明ニ趣クニ從ヒ勞
力ヲ漸次貴重スルノ念慮旺ンナルモノナリ既ニ述ヘタルカ如ク勞力
ハ生産ニ欠クヘカラサル要物タルヲ以テ見レハ固ヨリ之ヲ賤ムヘキ
道理無シ其必要ナル勞力ヲ賤ム如キニ至リテハ國家ノ經濟何ヲ以テ

進ムヲ得ンヤ國家ノ經濟進メハ國民ノ開明進歩シ開明進歩スレハ國
家ノ經濟モ亦進歩スルハ一ニハ勞力ヲ貴重ニスル効ト云フヘキナリ
古昔ニ在リテハ歐州ノ或國ニ於テモ勞力ヲ賤メタルモノナレトモ希
臘ハ夙ニ開明ノ進歩シタルヲ以テ雅典ニ於テハ(紀元前五百年頃)ソロ
ン王ノ時己ニ懶惰ノ民ヲ罰スル法アリキ今日吾人ノ社會ニ於テモ往
々勞力ノ貴重スヘキヲ説クモノアリ實際ニ於テモ攝生運動ト唱ヘ富
貴ノ人自ラ耒耜ヲ後園ニ執ルモノアルモ人却テ之ヲ賞讚シ敢テ之ヲ
怪マサルニ至レリ
又人民カ銳意進ンテ勞力ヲ爲スト否トハ大ニ各自カ勞力ノ結果ヲ私
有スルコトヲ得ル大小如何ニアルモノナリ勞力ノ結果ヲ有スルコト
大ニシテ安全ナルトキハ人々自ラ進テ勞働ヲ爲スヘク從ツテ勞力ノ
効驗必ス大ナルヘシ故ニ奴隸ノ勞力ハ効驗甚タ小ニ日傭勞力ハ請負

勞力ノ効驗ノ大ナルニ如カス元來奴隸ハ牛馬ト均シク主人ノ所有物ナルカ故ニ勉強努力ハ却テ己レノ利トナラス徒ラニ一身ヲ勞スルニ過キス己レノ利益ハ獨リ逸ヲ窺ムニ在リ是ヲ以テ勞力ノ効驗極メテ小ナリ

西印度ニ於テハ嘗テ奴隸ハ一週間ニ一回午後ノミ自己ノ爲メニ勞働スルコトヲ許セリ然ルニ其半日間ニ奴隸ノ勞働スル結果ハ主人ノ爲メニ一週間ニ勞働スル結果ト畧ホ相同シカリシト云ヘリ又魯西亞ノヘルンストフ伯ノ所有地ニテ農奴解放前後ノ收穫ヲ對照シタルニ裸麥ハ從前一石ヲ產シタルモノ二石七斗餘ト爲リ大麥ハ二石三斗餘ト爲リ燕麥ハ三石ト成レリ勞力ノ結果ヲ私有セシムルト否トニ由リテ効驗ノ差異ヲ生スルコト實ニ驚クヘキモノニアラスヤ集治監囚徒ノ勞力ノ如キモ亦此類ニシテ囚徒ハ通例甚ダ不勉強ナルモノナリ是レ

チ以テ懲戒ノ爲メナレハトテ純然タル奴隸ノ如ク無報酬ニテ勞働セシムルトキハ經濟上ノ不利少カラス(合衆國ノ奴隸ハ重ニ農業ニ使役シタルモノナルカ之ニ馬ヲ使用セシムルコト能ハス騾馬ヲ使用セシメタリ何トナレハ馬ヲ使用セシムルトキハ殘酷ニ使用スルユヘ其生命ヲ害フヲ以テナリ其他鋤、鋸ニ至ルマテ手荒ク使用スルヲ以テ疎ニシテ堅牢ナルモノヲ用ヒタリト云フ)我國囚徒ノ如キ幾分ノ勞銀ヲ與フルコト、ナシタルハ蓋シ多少勞力ノ結果ヲ私有セシメテ其效驗ヲ増スノ方便ナラン

日傭勞力者ハ其勞力ニ從事シタル日ハ必ス其報酬ヲ得ヘキカユヘニ獎勵セラレテ勞働ニ就クヘシ然レトモ請負者ノ踴勉努力ナルニ如カス何トナレハ日傭勞力者ハ業ニ就キタル日ハ其日ノ勞銀ヲ得ルコト勉強ノ度ニ據リテ異ナラサレトモ請負勞力者ハ勞働ノ多少ニ由リテ

其得ル所ノ報酬ヲ異ニスレハナリ英人ブラツセー氏ハ多クノ勞力者
 ナ使用シタル人ナルカ氏ノ説ニ依レハ鐵道建築ニ於テ地ヲ平均シ土
 ナ堀ル如キ下等ノ業ニ日傭ト請負トヲ比スルニ同シ勞力者ニテ日傭
 ニスレハ一「ヤード」ニ付キ十八「ペンズ」ヲ要スレトモ請負ナレハ一「ヤル
 ド」ニ付キ僅ニ七「ペンズ」ニテ足レリト云ヘリ吾人カ家ヲ造ルニモ工事
 ナ請負トスレハ大工ハ朝早ク來リ夕ハ晚ク去リ休息時間モ短クスル
 ナ以テ豫定ノ工手間ヲ要セサルモノトス是レ大工ハ逸スレハ益ナク
 シテ損アリ勞スレハ自ラ其利ヲ收ムルコトヲ得ルカ爲メニ勉強スル
 ナリ

斯クノ如ク勞力ノ效驗ハ其結果ヲ私有スルコトノ大ナルニ從ヒテ之
 ナ大ニスルコトヲ得ルカ故ニ請負勞力ノ如ク其報酬ヲシテ勞力ノ多
 寡ニ應セシムルノ方法ハ勞力ノ効驗ヲ大ニスヘキヤ論ヲ待タサルナ

リ然レトモ元來請負法ノ爲メニ勞力ノ効驗ヲ増スヘキモノハ仕事ノ品質ニアラスシテ仕事ノ高ニ在リ是ヲ以テ事業ノ性質ニ依リ之ヲ施行シテ利アルモノアリ却テ不利ナルモノアリ試ミニ日傭勞力ト請負勞力トノ得失ヲ對比センニ之ヲ米麥ノ收穫ニ使用セハ收穫ハ時日ヲ爭フモノナルカ故ニ日傭勞力者ヲ使用スルトキハ勞力者ノ時間ヲ徒費セサル様注意監督ヲ要シ之ニ反シテ請負勞力トナル時ハ勞力者ハ矢鱈無暗ニ仕事ヲ急クカ故ニ雨天ヲモ厭ハス刈採ヲ爲シ長莖ヲ地ニ委シテ顧ミス穀實ノ散亂スルモ之ヲ意トセサル嫌アリ世ニ同種ノ物品ニシテ數物ト稱スルモノアリ是等ハ請負法ニ由リ數量ヲ多ク生産スルヲ主トシタルモノニシテ外形ハ美ナルモ品質ハ危弱ナルトカ品質堅強ナレハ精巧ヲ欠クトカ決シテ完全ナルモノニアラサルナリ然レトモ通例是等ノ物品ハ低價ニシテ需用者ノ爲メ頗ル便ナルモノナ

リ左レハ請負勞力ノ効驗ハ大ナルヘキモ思慮綿密ニ闕ク所アリ仕事
ノ品質精良ナルヲ撰ハサル事業ニ請負勞力ヲ用フルハ利アルヘシト
雖モ思慮注意ヲ重ンスル事業ニ至リテハ用フヘカラス又事業ニ依リ
テハ請負勞力ヲ用フヘカラサルモノアリ例エハ學校ノ有名ナル教授
ノ如キハ一日教授スル勞力ヲ計算シテ報酬ヲ與エテ買フモノニアラ
ス其教授ノ進退ハ一校ノ盛衰消長ニ關係スルコト大ナルヲ以テ名譽
ト云無形物ニ對スル報酬ヲ要スルヲ以テ也又官員ノ如キモ時間ト事
業トニ依リテ報酬ヲ爲スモノニ非ス蓋官吏ハ國家ノ爲メ身ヲ投シテ
従事スヘキモノニシテ商人根性ヲ出サシムヘカラサルカ爲メナリ兵
士ノ如キモ敵ノ首級ヲ幾何獲ルモノハ報酬幾何ト定メテ服役セシム
ルトキハ平常無事ノ日ニハ兵士ハ饑寒ヲ免レサルヘシ又一家内ノ家
婢ノ如キ爨炊洗濯ノ勞ヲ計算シテ報酬ヲ與フル者ニ非ス是レ家婢ノ

如キハ家内ニ止宿スルコト傭主ノ便ヲナスヲ以テ便利ト云フ無形ノ
モノニ對スル報酬ヲモ合セ與フルモノナレハナリ加フルニ請負ハ勞
働ヲ獎勵スル益アリト雖モ亦勞働ヲ過度ニスル患アリ懶惰ノ者ハ過
度ニ勞働セヨト云フモ決シテナサ、ルヲ以テ心配ナシト雖モ正實熱
心ノ徒ハ我身ヲ顧ミス眼前ノ利益ニ釣ラレテ過度ニ勞働シ遂ニ身體
ヲ害スルコトアリ然ルトキハ一國ノ經濟上甚シキ損失ヲ生スヘシ夫
レ人間ハ幼少ノ時ハ勞働シテ生産ヲナサス他ノ生産ニ養ハルモノナ
レハ成長ノ後ハ自ラ生産シテ之ヲ償フハ處世ノ義務ナリ然ルチ十分
ニ其義務ヲ果サスシテ早く已ニ身ヲ害ヒ早世セハ國家ノ損失トナル
ヘシ是レ身ヲ利セント欲シテ却テ損失ヲ生スルモノナリ豈ニ申譯ナ
キコトナラスヤ

右ノ如ク請負勞働ハ一得一失ナリト雖モ利益ヲ勞力者ニ分與スルノ

法ヲ以テ多少此不便ヲ避クルヲ得ヘキナリ今勞力者ニ許スニ其從事
 スル事業ノ利益ノ幾分ヲ配賦スルヲ以テセハ單ニ勞力者勞働ノ量ヲ
 増加スルノミナラス材料ヲ節儉シ品質ヲ精良ニスルニ至ルヘシ此方
 法タル啻ニ請負勞力者ニ於テノミ用ユル利アルニアラス總テ仕事ヲ
 綿密ニナスヲ要スル事業監督ヲ施シ難キ事業ニ用ユルヲ良トス嘗テ
 歐洲ノ「ライン」鐵道ニテ器械ニ使用スル油ノ徒消セラル、ヲ憂ヒ若シ
 油ヲ節儉シテ餘剩ヲ生セハ其幾分ヲ以テ取扱人ニ與フヘシト定メタ
 ルニ爾後瀛車ノ運轉増加シタルニモ拘ラス従前油ノ費用二万七千「タ
 ーレル」ヲ要シタルニ減シテ五千「ターレル」ニテ足ルコト、ナレリト云
 フ

次テ勞力者ヲシテ勞働ニ進マシメンニハ自由競争ナルモノヲ要ス勞
 力ノ競争自由ニ行ハル、トキハ勞力者ノ已ニ得タル地位モ安全トシ

テ頼ムニ足ラス其地位ヲ得サルモノハ進ンテ之ヲ取ラントスル期望アリ故ニ勞力者ハ常ニ恐懼ト期望ノ間ニ立チテ毫モ惰ルコトヲ得ス從ヒテ益々努力事ニ從フヘキナリ加フルニ勞力者各自ラ其職業ヲ撰ムヲ以テ各適當ノ業務ヲ執リ天性ノ長技ヲ發達スルコトヲ得テ勞力ノ効驗益大ナルヲ得ヘシ昔時封建代ノ如ク武士ノ子ハ必ス武士タルヘク醫師ノ子ハ必ス醫士タルヘク商人ノ子ハ必ス商人タルヘキモノト定メアルトキハ決シテ勉強ノ効ヲ見ルコトヲ得サルヘシ如何ニ智識ニ富ミ才能ニ秀テタリトテ足輕ハ一生足輕ナリ學者モ家柄ニアラサレハ近眼ニテモ弓ヲ射鐵砲ヲ放タサルヘカラス事實斯クノ如クナレハ啻ニ勞力ニ効驗ナキノミナラス危害ナル勞力ト云フヘキナリ之ニ反シテ優游懶惰ニ日ヲ消スレハトテ大名ノ子ハ大名タリ賢愚ノ別ナク臣下ハ來リテ己レノ前ニ低頭平身スヘク大夫ノ子ハ必ス執政ト

カ參政トカ稱シテ一領地ノ政權ヲ掌握スルコトヲ得ヘク別ニ恐懼ト云フ刺衝モナク期望ト云フ獎勵モ無ケレハ熱心勉強シテ進取スルノ氣象モ無カルヘシ華族ヤ富豪ノ怠惰ナル故ナキニアラサルナリ又教育ハ何處ニモ要用ナルモノナレトモ勞力ニ於テモ影響少カラス夫レ人間ノ教育ナキモノハ需用甚少シ只眼前肉體ノ慾ヲ逞フスルヲ以テ満足シ進ンテ勞力スルヲ欲セス安逸ヲ以テ無上ノ快樂ト考フルカユヘニ力メテ勞働ヲ避ケントスルモノナリ然ルニ教育アルモノハ其需用タルヤ多シ之ヲ満足セント欲セハ勉強勞力スルニアラサレハ得ヘカラス之ヲ以テ銳意勞働シテ倦マサルナリ故ニ概シテ未開國ノ人民ハ懶惰ナリ懶惰ナリ懶惰ナルカユヘニ人民進歩セス開明國ノ人民ハ勉強ナリ勉強ナルカ故ニ益々進歩ス語ルモ快カラサルコトナカラ我邦勞力者ノ有様ハ實ニ衰レナルモノアリ試ミニ府下勞力者ニ就テ云ハンニ

禁止令ヲ
請求スル
手續

救正ハ原告カ請求スル所ノ行爲ノ決行又ハ繼續ヲ禁制スルヨリ成立
 モノニシテ訴訟審理中ニ於テ原告カ請求スル所ノ行爲ヲ決行シ又ハ
 之ヲ繼續スルトキハ原告ニ於テ大ナル損害ヲ蒙ムルノ恐アルトキ又
 ハ被告ニ於テ訴訟ノ目的ニ關スル原告ノ權利ヲ侵害スルノ行爲ヲナ
 シ之カ爲メ裁判ノ結果ヲ無効ナラシムルノ傾向アルカ如キ場合ニ於
 テハ裁判所ハ直チニ斯ノ如キ行爲ヲ禁制スルナリ
 禁止令ハ被告召喚狀ヲ發スルト同時ニ之ヲ發スルヲ得或ハ又裁判言
 渡前ハ何時ニテモ之ヲ發スルヲ得ルナリ而シテ若シ訴訟ノ起頭ニ於
 テ禁止令ノ下附ヲ必要トスルトキハ請願ノ式ニ依テ以テ之ヲ請求セ
 サル可カラス然レトモ訴訟審理中ニ之ヲ必要トスルトキハ其請求書
 ニ誓詞ヲ添ヘルヲ以テ足レリトス
 裁判所ニ於テハ禁止令ヲ發スル前ニ其之ヲ請願スル原告ヲシテ二名

合衆國領事裁判訴訟法

以上ノ保證人ヲ立テ若シ原告ノ請求不當ニシテ爲メニ禁止令ヲ發セ
 ラレタル人ニ損害ヲ與ユルカ如キコトアルトキハ直チニ之ヲ賠償ス
 ヘキ旨ノ保證狀ヲ呈供セシム然レトモ合衆國ノ政府カ原告人タル場
 合ハ此限ニ非サルナリ
 禁止令ヲ發セラレタル方ニ於テ之カ解除又ハ變改ヲ請求セント欲ス
 ルトキハ其趣ヲ反對ノ地位ニ立ツ人ニ報告シ裁判所ニ對シテ之ヲ請
 求シ得ルモノトス裁判所ニ於テハ能ク其事實ヲ審究シ果シテ禁止令
 ナ發スルニ足ル理由ナキモノト判定スルトキハ適宜ニ之ヲ解除又變
 改スルナリ(領事廳規則第二十九條乃至第三十一條ヲ參看スヘシ)
 又合衆國ノ領事廳ニ於テ特ニ規則ヲ設ケ其第二十條ニ凡ソ裁判所ニ
 呈供スル保證書ニ署名シテ證人トナルヘキ人ハ必ラス日本帝國在留
 ノ合衆國民ニシテ執行免除ノ部ニ屬セサル財産ヲ以テ各自ノ負債ヲ

償却シ得ル財産ノ外猶ホ右保證書ニ記載スル金額ヲ辨償スルニ充分ナル財産ヲ有スル人ニ限ルモノトセリ

○命令書「マンドマス」ハ普通法高等裁判所ニ於テ其管轄ニ屬スル下等裁判所又ハ官吏ヲシテ其職務ヲ執行セシムル爲メニ發スルモノナリ蓋シ羅旬語ノ「マンドマス」ハ余ハ汝ニ對シテ命令スト云フ意義ニシテ領事廳規則ノ第九十七條ニ依レハ在日本帝國令衆國公使館ヨリ領事廳ニ對シテ此ノ命令書ヲ發スルアリ或ハ公使館又ハ領事廳ヨリ會社會同又ハ一個人ニ對シ其法律上負擔スル所ノ義務ヲ履行セシムル爲メ又ハ權利或ハ官職ヲ享有ス可キ人ニシテ不正ニ之ヲ剝奪セラレタル者アルトキハ其之ヲ享有セシムル爲メ此ノ命令書ヲ發スルナリ然レトモ如何ナル場合ニテモ此ノ令狀ヲ發シ得ルモノニアラス普通

ノ手續ヲ以テ法律上最モ迅速適宜ノ救正ヲ施ス能ハサル場合ニ限り
命令書ヲ發スル者ニシテ且此令狀ヲ請求スル者ヨリ誓詞ヲ呈シタル
後ニ非ラサレハ決シテ之ヲ下附セサルモノトス而シテ命令書送達ノ
手續ハ民事被告召喚狀ノ送達ト異ナル所ナシト雖モ裁判所ヨリ特ニ
其送達ノ手續ヲ示スコトアリ故ニ此ノ場合ヲ除ク外ハ總テ召喚狀ト
同一ノ手續ヲ以テ之ヲ送達スルナリ

○セルチナライ「復審命令書」

「セルチナライ」トハ高等裁判所ヨリ下等裁判所ニ對シテ或ル格段ナ
ル事件ニ關スル其記録ヲ證明シテ送附センコトヲ命スル令狀ニシテ下
等ノ裁判所及裁判官ニ於テ錯誤ノ裁判ヲ下シタルトキ其錯誤ヲ正シ
適法ノ裁判ヲ與ユル爲メ復審ヲ要スル場合ニ此ノ令狀ヲ發スルナリ
「セルチナライ」狀即復審命令書ハ人民ノ請願ニ應シ在日本帝國合衆

國公使館又ハ桑港ニ於ケル合衆國巡廻裁判所ヨリ之ヲ下附スルモノ
ニシテ下等裁判所ノ判官又ハ其他ノ官吏ニシテ司法權ヲ掌ル者力越
權ノ裁判ヲ下スモ控訴スルヲ得サルトキ又ハ裁判所ノ判決ニ依テ明
瞭迅速且ツ適法ノ救正ヲ得ル能ハサル場合ニ此ノ令狀ヲ必要トスル
者ヨリ誓詞ヲ呈供シテ之カ下附ヲ請願スルトキハ裁判所ニ於テハ請
願ノ趣旨ヲ反對ノ地位ニ在ル人ニ報告シテ此ノ令狀ヲ下附スルノ理
由ナキヲ證明セシムルコトアリ或ハ報告ヲ爲サスシテ直チニ之ヲ下
附スルコトアリ而シテ其之ヲ下附スルニハ證明ス可キ記録ヲ保管ス
ル下等ノ裁判所又ハ官吏ニ宛テ之ヲ送達セシムルナリ
下等裁判所ニ對シテ復審命令書ヲ送達セラレタルトキハ其判官又ハ
書記アル裁判所ハ其書記ヨリ記録ノ謄本ヲ添ヘテ令狀送達ノ報告ヲ
爲サ、ル可カラス而シテ此令狀ニハ確定ノ場處及時日ニ於テ復審事

件ニ關スル記録ヲ精密ニ證明シ其謄本ヲ令狀ヲ發シタル裁判所ニ送致ス可キ命令ヲ記載シ其送達ノ手續ハ召喚狀ノ送達ト異ナル所ナシ(領事廳規則第百八十七條乃至第百九十六條ヲ參觀ス可シ)

○裁判言渡

裁判言渡ニ豫審判決終審判決ノ二種アリ豫審判決トハ訴訟審理中或ル答辯又ハ手續等ニ就テ豫メ裁判ヲ言渡スモノニシテ原被兩造ノ權利ヲ決定シ訴訟ヲ完結スルノ判決ニ非ス終審判決トハ訴訟ノ結局ニ至リ原被兩造ノ權利義務ヲ充分ニ説明スル裁判言渡ヲ云フ

裁判言渡ニ關シテハ領事廳規則中左ノ條項ヲ掲ケリ
領事廳規則第五十九條

左ニ記載スル場合ニ於テハ訴訟ヲ棄却シ又ハ原告失訴ノ裁判言渡ヲ爲ス可シ

欠席裁判
ヲ爲ス場
合

一 召喚狀ニ指定スル時日内又ハ猶豫ヲ與ヘタル期限内ニ於テ被告ヨリ答辯書ヲ捧呈セサルトキハ原告ノ請求ニ應シ直ニ被告欠席ノ裁判言渡ヲ爲スヘシ然レモ此場合ニ於テハ裁判所ハ先ツ原告ヲシテ充分ノ訴權ヲ有スルヤ否ヲ證明セシメ果シテ欠席裁判ヲ爲スニ足ル證據ヲ原告ニ於テ呈供シ得ルトキハ其裁判言渡ヲ爲スモノトス且訴訟ノ金額五百弗以上ナルトキハ他ノ場合ニ於ケルト均シク領事ノ裁判事務ヲ補佐スル爲メ補助員ヲ撰定セザル可カラス

二 被告ノ所在不明ナルヲ以テ召喚狀ヲ新聞紙ニ廣告シ其廣告シタル期限ヲ經過スルモ被告ニ於テ答辯書ヲ呈供セサルトキ原告ヨリ欠席裁判ヲ請求スルトキハ原告ヲシテ前項同様ノ證明ヲ爲サシメ若シ又被告日本帝國ニ在留スル者ニ非ラザルトキハ原告又

ハ其代理者ヲシテ宣誓ノ式ヲ行ハシメ曾テ被告ヨリ支拂ヲ受ケ
 タルヤ否ヲ審問シ原告ニ於テ請求ノ權ヲ有スル金額ノミニ就テ
 欠席裁判ノ言渡ヲ爲スモノトス
 被告カ答辯書ヲ呈供セサル場合ニ原告ニ對シテ與ヘラレタル判決ノ
 救正ハ訴狀ニ記載スル請求ノ金額ヲ超過スルヲ得スト雖モ答辯書ヲ
 呈供シタル場合ニ於テ裁判所ハ一切ノ訴訟入費ヲモ拘括スルノ救正
 ヲ與ヘ得ルモノトス(領事廳規則第五十八條ヲ參觀スヘシ)
 訴訟對審ノ際ニ於テ被告ヨリ反求又ハ相殺ヲ提出シ其額原告請求ノ
 額ニ超過スルトキハ裁判所ハ原告ニ對シテ其不足ノ額ヲ被告ニ償却
 スヘキ判決ヲ下スモノトス(領事廳規則第八十條ヲ參觀スヘシ)
 此ノ規則ニ基キ神奈川領事廳ニ於テハ一千八百六十二年九月四日「ア
 ドリアン」商會ノ訴訟ニ左ノ判決ヲ與ヘタリ曰ク原告請求ノ額ニ超過

反求又ハ
 相殺ノ請
 求アルト
 キ

スル金額ヲ請求シ得ル權利ヲ有スル被告ニシテ若シ單ニ原告請求ノ
 金額ト相殺ノミヲ請求シ其殘額ヲ請求セサルトキハ被告ハ後日ニ至
 リ再ヒ之ヲ請求スルノ訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトスト
 裁判所ニ於テハ債主ノ利益ヲ保護スル爲メ負債主ヲシテ宣誓ノ式ヲ
 行ハシメテ總テ其負擔スル所ノ責任ヲ認ムルノ陳述書ヲ呈供セシメ
 其陳述書中ニ載セタリ負債ニ就テハ恰モ一定ノ手續ヲ履行シテ訴訟
 テ提起シタルモノト同一ノ方法ヲ以テ判決ヲ與ユルナリ(領事廳規則
 第一百五十一條乃至第一百五十三條ヲ參觀セヨ)
 爭論ヲ影響スル事實ニ就テハ對手雙方共ニ異論ナキモ其事實ヨリ生
 スル所ノ法律上ノ義務ニ關シテ相互ニ一致スルコト能ハサルトキハ對
 手雙方ニ於テ右ノ事實ヲ認メテ之ヲ裁判所ニ呈供シ其裁判ヲ仰クヲ
 得ルナリ而シテ此ノ場合ニ於テ與ヘラレタル判決ハ相當ノ手續ヲ履

行シテ裁判ヲ受ケタル同一ノ効力ヲ有スルモノナリ(領事廳規則第五
十四條乃至第五十六條ヲ參觀スヘシ)

○裁判執行

訴訟ニテ勝利ヲ占メタル者ハ其裁判言渡ノ日ヨリ五年内ニ於テハ何
時ニテモ裁判所ニ對シテ執行命令書ヲ請求シ得ルモノトス蓋シ此ノ
執行命令書ハ亞米利加合衆國々民ノ名義ヲ以テ之ヲ發シ裁判所ノ印
章ヲ押捺シ裁判言渡ヲ爲シタル裁判所ノ名稱及金額等ヲ記載シテ之
ヲ「マーシヤル」官ニ宛テ送達シ「マーシヤル」官ハ左ノ手續ニ依テ以テ執
行スルモノトス

一 負債主ノ財産ニ對スル執行ノ場合ニハ「マーシヤル」官ハ先ツ負債
主ノ動産ヲ以テ債主ノ請求ヲ満足セシメ若シ債主ヲ満足セシム
ルニ足ル動産ヲ發見スル能ハサルトキハ其不動産ヲ以テ執行ス

ルモノトス

- 二 財産管理者相續人受遺囑者小作人又ハ受托者ノ手ニ在ル動産又ハ不動産ニ對スル執行ノ場合ニ於テハ「マーシヤル」官ハ右ノ動産又ハ不動産ヲ以テ債主ノ請求ヲ満足セシメサル可ラス
- 三 負債主ノ身體ニ對スル執行ノ時ニハ「マーシヤル」官ハ負債主ヲ逮捕シテ獄ニ繫キ負債主ニ於テ負債ヲ辨償シタル後之ヲ放免シ若シ辨償シ能ハサルトキハ法律ニ依テ之ヲ放免スルモノトス
- 四 動産又ハ不動産引渡ニ關スル執行ナレハ「マーシヤル」官ハ其動産及不動産ヲ明細ニ記載シ引渡ヲ受クヘキ權利ヲ有スル人ニ之ヲ引渡サル可ラス且ツ「マーシヤル」官ハ費用損害借地料又ハ其他ノ利益ノ如キ債主カ同一ノ裁判ニ依テ回復シタルモノハ負債主ノ動産ヲ以テ之ヲ辨償シ且ツ其動産ノ價格ヲ明示セサル可ラス

執行ニ關
スル「マ
ーシヤル
官ノ職務

若シ又引渡ヲ爲スヲ得サルカ又ハ充分ノ動産ヲ發見スル能ハザ
ルトキハ第一ノ場合ニ於ケル如ク其不動産ヲ以テ債主ノ請求ヲ
満足セシムルモノトス
「マーシヤル」官ハ執行命令狀ヲ領收シタル後十日以上六十日以内ニ其
執行ノ手續ヲ裁判言渡ヲ爲シタル裁判所ニ報告スルモノトス而シテ
苟モ負債主ノ所有ニ屬スル財産ハ法律上執行ヲ免除スル物ノ外ハ其
動産ト不動産トヲ問ハス且ツ同一ノ訴訟ニ就テ差押ヘタル財産及財
産所有權ハ皆「マーシヤル」官ニ於テ執行シ得ルモノニシテ會社商社ノ
株金及其利益動産ト不動産トヲ問ハス總テ會社ノ財産ニ對スル負債
及信用、右動産不動産ヨリ生スル利益其他手渡スルヲ得サル財産ハ皆
執行ノ際ニ於テハ財産差押狀ヲ以テスル場合ト同一ノ方法ニ依テ之
ヲ差押ヘ得ルナリ

執行免除
ノ財産

執行ノ爲メニ差押ヘタル財産ヲ第三者ヨリ自己ノ所有ニ屬スヘキモノトシテ請求スルトキハ、マーシヤル官ハ直ニ其請求ノ氏名及ヒ請求ノ額ヲ執行請求者ニ報告スルナリ而シテ執行請求者ニ於テ猶右ノ財産ヲ差押ヘ置カント欲スルトキハ右財産ノ額ニ二倍スル金券ノ保證狀ヲ呈供シテ差押ヘタル財産ヲ公賣ニ附スルモ、マーシヤル官ニ損害ヲ蒙ムラシメサルコトヲ保證セサル可ラス且ツ此保證狀ハ、マーシヤル官ヨリ報告ヲ受ケタル後二日以内ニ之ヲ呈供セサルトキハ、マーシヤル官ハ執行命令書ヲ發シタル裁判所ニ其手續ヲ報告シテ右財産ハ第三者ニ交附スルモノトス

今左ニ記載スルモノハ法律上執行ヲ免除スルモノトス

第一種 負債主ノ所有ニ屬スル机、椅子、文庫、及、書籍、等ノ合計代價百弗以下ノ者

第二種 負債主ノ所有ニ屬スル日常ノ衣服、器具、寢臺、煖爐、一人又ハ一

家族ヲ一月間支ユルニ足ル食料其他生計ニ必要ナル物等ノ合計

代價六百弗以下ノ者

第三種 職工又ハ機械師等カ其職業ヲ營ムニ必要ナル機械及道具醫

師外科醫測量家及齒醫等カ其業ヲ營ムニ必要ナル機械道具箱及

書籍代言人及宣教師ノ書庫

「マーシヤル」官カ負債主ノ財産ニ對シテ命令ヲ執行スルニハ先ツ債主

ヲ満足セシムルニ充分ナル負債主ノ財産ヲ差押ヘテ之ヲ賣却シ其代

價ヲ以テ直ニ債主ニ辨償スルコトアリ或ハ其賣却代價ヲ裁判所ニ預

ケ置クコトアリ而シテ賣却代價ヲ以テ債主ノ請求ヲ満足セシメ「マー

シヤル」官ノ手數料ヲ引去リ猶餘アルトキハ其殘額ハ之ヲ負債主ニ還

附セサル可ラス又「マーシヤル」官ニ於テ負債主ノ所有ニ屬スル財産ハ

執行ニ付
財産差押
ノ手續

財産公賣
ノ手續

債主ノ請求額ヲ辨償シ、マ―シヤル官ノ手数料ヲ支拂ニ餘アルト認ム
 ルトキハ其全額ヲ差押ヘスシテ單ニ債主ノ請求額ト、マ―シヤル官ノ
 手数料ヲ支辨スルニ足ル財産ノミヲ差押ユルモノトス而シテ、マ―シ
 ヤル官ハ執行ノ爲メ差押ヘタル財産ヲ公賣ニ附スル前ニ於テ豫メ左
 ノ報告ヲ爲サ、ル可ラス

一 差押ヘタル物品ノ性質消滅シ易キモノナルトキハ其之ヲ公賣ニ
 附スル時日及ヒ場所ヲ書載若クハ印刷シテ公賣ニ附スル港或ハ
 都府中公衆ノ通行スル場所ニ於テ相當ノ時日間之ヲ揭示セサル
 可ラス

二 他ノ動産ヲ公賣ニ附スル場合ニ於テモ亦前項同様ノ揭示ヲ爲シ
 且ツ右揭示ノ寫ヲ其場所ニテ發兌スル新聞紙ニ五日以上十日以
 下ノ間毎日記載廣告セサル可ラス

賣買ノ方
法

三 不動産ヲ公賣ニ附スル場合ニ於テ其財産ヲ明細ニ記載シ其所在
ノ港或ハ都府中ニテ公衆ノ通行スル場所ニ二十日間之ヲ揭示シ
且ツ其寫ヲ該所ニ於テ發行スル新聞紙上ニ每週一回宛二十日間
記載公廣スヘキモノトス
凡ソ執行ニ關スル財産ヲ賣却スルニハ必ス糶賣ノ方法ニ依リ午前第
十時ヨリ午後第五時ニ至ルノ間ニ於テセサル可カス而シテ既ニ執行
ノ目的ヲ達スルニ充分ナル財産ヲ賣却シタルトキハ他ノ財産ヲ賣却
スルヲ要セス且執行官或ハ其代理者ハ糶賣ノ購求者トナルヲ得ス又
其購求ニ關係スルヲ得サルナリ若シ又賣却スヘキモノ動産ニシテ手
渡ヲ爲シ得ルトキハ糶賣ニ臨列スル人ノ目前ニ於テ可成の高價ヲ得
ルノ方法ヲ以テ之ヲ賣却シ若シ又公賣ニ附スヘキモノ數部分ヨリ成
立スル不動産ナルトキハ數部分各別ニ之ヲ賣却シ或ハ又第三者ヨリ

斯ノ如キ不動産ノ一部分ヲ自己ノ物ナリト請求シ別ニ其部分ノ賣却
 ヲ請求スルトキハ其一部分ヲ別ニ賣却スルモノトス
 糶賣ノ場所ニ臨列スル負債主ハ數部分ヨリ成立スル財産ニシテ數部
 分各別ニ賣却スルノ便利アルモノト認ムルトキハ動産ト不動産トヲ
 問ハス其賣却ノ順序ヲ指揮シ得ルモノニシテ「マーシヤル」官ハ必ス其
 指揮ニ從ハサル可ラス而シテ落札者若シ其入札代價ノ支拂ヲ拒ムト
 キハ執行官ハ更ニ他ノ高價ヲ以テ購求セントスル落札者ニ之ヲ賣却
 スヘシ若シ又入札代價ノ支拂ヲ拒ミタル爲メ多少ノ損害ヲ來シ其拒
 ミタル人カ合衆國ノ國民ナルトキハ執行官ハ之ヲ被告トシテ損害要
 償ノ訴訟ヲ提起シ併セテ其訴訟入費ヲモ請求シ得ルナリ
 手渡ヲ爲シ得ル動産ヲ購求シタル者其代價ヲ拂ヒ込ムトキハ執行官
 ハ直ニ其賣買ヲ完結シ財産ヲ購求者ニ引渡シ購求者ニ於テ賣買並ニ

負債ニ充ツルコトヲ得ルハ當然ニシテ夫ノ債主ハ他ノ財産ト共ニ是レヲ以テ其辨償ニ充ツルコトヲ得ルナリ又英吉利ノ古法ニ從ヘハ外國人ト婚姻セル英女ニ對シテハ外人其財産ニ對シテ權利ヲ行フコトヲ得サリシカ今日ニ於テハ亦之ヲ執行スルコトヲ得ルニ至レリ英國ノ習慣法ニ依レハ夫妻トモ生存セル間ハ夫ノミ妻ノ不動産ヲ他人ニ讓渡シ又ハ義務ヲ以テ束縛スルコトヲ得然レトモ現今ニ至リテハ條例ヲ以テ夫ノ權利ノミヲ移轉スルコトヲ許セリ米國ニ於テハ英法ノ如ク條例ナシト雖モ夫ニ於テ妻ノ相續權ヲ害スルノ所爲ヲ爲スヲ得ス而シテ若シ夫カ之ヲ他人ニ移轉シタルトキハ唯夫ノ生存間ノ收益權ノミヲ移轉シタルモノト看做スヘシ夫ハ妻ノ不動産ヲ質入スルノ權ナシト雖モ其自己ノ有スル收益權ノ

ミテ質入スルヲ得ヘシ
夫、妻ノ不動産ヲ荒蕪ナラシムル所爲アルトキハ妻ニ於テ之ヲ止ムル
訴ヲ衡平法廳ニ起スコトヲ得ヘシ併シ荒蕪ナラシムルニモ種々アリ
テ單ニ收益權ノミニ關係シタル荒蕪ハ妻如何トモスル能ハサルモ永
遠ノ損害ヲ受クル恐アルトキハ訴ヲ起スヲ得ヘシ且ツ又夫カ收益權
ヲ有スル間ハ其收益權ニ負擔スル義務ハ夫ニ於テ之ヲ盡サ、ルヘカ
ラサルナリ
婚姻繼續中他人ヨリ妻ニ不動産ノ讓渡ヲナサントスルモノアルトキ
ハ夫ニ於テ之ヲ拒ムヲ得ヘシ何トナレハ夫ニ於テ畢生間ノ小作權ヲ
得ルハ其好マサル所ナルヤモ未タ知ルヘカラサレハナリ然レトモ右
ハ夫ニ於テ畢生間ノ小作人タルヲ不利益ト爲シ之ヲ拒ムヲ得ルモノ
ニシテ妻ニ相續權ヲ與ヘントスルモノニ故障ヲ述フルヲ得ス

英吉利法律ニテハ夫妻ノ承諾ニ以テ妻ノ不動産ヲ以テ動産ト爲シタルトキハ夫ハ之ヲ自己ノ所有物ト爲スヲ得ヘシ然レトモ夫妻ノ隨意ニ出テス法律ノ作用ヲ以テ變化ヲ爲シタル場合ニハ其結果ハ如何アルヘキヤ之ヲ斷言スルヲ得ス然レトモ紐育ニ於テハ斯ル場合ニハ妻自ラ其處分ヲナスモノト同様ニ取扱フヘキモノナリト衡平法裁判所ハ判決シタルコトアリ妻ノ別有財産ニアラサル不動産ヲ賣却スルノ契約ハ妻之ヲ爲スト雖モ妻ニ對シテ履行セシムルコトヲ得ス然レトモ英國ニ於テハ條例ヲ以テ夫ノ承諾アルトキハ賣却ヲ爲スヲ得ルモノトセリ而シテ妻ニ於テモ賣買ヲ爲サントスルコトヲ司法官ノ目前ニ於テ陳述セサルヘカラス而シテ其賣買ヲ爲サントスル承諾ハ自由ニシテ且ツ隨意ナルコトヲ司法官ニ認メシメサルヘカラス

米國ニ於テハ妻ノ不動産ヲ引渡ス證書ニハ夫ヲ連帶ニスルノ習慣ハ

古ヨリ傳來セリ然レトモ夫ノ承諾ナク又ハ承諾アリト雖モ不動産ヲ
 引渡スノ契約ハ妻ニ對シテ之カ履行ヲ訴出ツルヲ得ス即チ引渡ト引
 渡ノ契約ノ間ニ區別ヲ立タルナリ
 引渡ハ不動産ノ所有權ヲ移轉セシムルノ證書ニシテ之カ執行ヲ遂ケ
 タルトキハ有効トス然レトモ引渡ノ契約ハ之ニ反シテ未タ履行ヲ遂
 ケサル間ハ所有權ヲ移轉シタルモノニアラサルカ故ニ有夫ノ婦女ハ
 他ノ場合ニ於ケルカ如ク契約ノ履行ノ責任ヲ有セサルモノトス英米
 ノ慣例ニテハ女子ト子供ハ特別ニ法律ノ保護ヲ受クルモノニテ日本
 人ヨリ之ヲ見レハ甚シキ保護ヲ與フルモノ、如シ例エハ這回ノルマ
 ントン號沈沒事件ニ付キ在橫濱英國女皇陛下ノ刑事裁判所ニ於テラ
 ウダー氏ノ辯論ニ在ル如ク好シヤ男子ヲ助ケ得サルモ子供婦人ハ助
 ケ得タルヤ云々トアルカ如キハ所謂陪審役ヲ感動セシムルノ方法ナ

妻ノ死亡
シタルト
キ夫ノ普
通法上有
スル所ノ
權利及義
務

リ英米國ノ慣習カ幼者女子ヲ保護スルノ厚キヲ知ルヘシ
又米國ニテハ有夫ノ婦女ハ夫ト連帶ニテ其不動産ヲ質入シ又ハ移轉
スルコトヲ得而シテ此場合ニハ報酬カ妻ノ利益ニ歸シタルコトヲ必
要トス若シ其移轉ノ原因夫ノ負債ノ抵償タル場合ニ於テ妻ハ夫ト連
帶義務者トナラスシテ保證人トシテ論セラルヘシ總テ通常保證人カ
負債主ニ對シテ有スル所ノ特權及權利ヲ得ヘシ
妻不動産上ニ畢生ノ所有權ヲ有スルトキニハ夫ハ之ヨリ生スル所ノ
利益ヲ所得スルノ權ヲ有スヘシ而シテ此場合ニ於テ畢生ノ所有權ハ
妻ノ生存間ナルト他人ノ生存間ナルトヲ問ハス同一トス若シ畢生ノ
所有權他人ノ生存ニ關係アルトキハ妻死亡シタル後ト雖モ夫ハ其所
爲ヲ得ルノ權ヲ有スヘシ

第七編 妻ノ死亡シタルトキ夫ノ普通法上有スル

所ノ權利及ヒ義務ヲ論ス

妻ノ死亡シタル時ニハ夫ハ妻ノ遺物ニ對シテ管財處分ヲ行フノ權利アルヘシ而シテ管轄裁判所ハ夫ニ於テ其權利ヲ拋棄スルニアラサレハ他人ニ管財狀ヲ下スヲ得サルナリ

夫ハ其固有ノ權力ヲ以テ凡テ妻ノ所有ニ係ル訴訟產ヲ所得シ及ヒ若シ生存スルトキニハ妻ノ准不動産ヲ所得スルノ權ヲ有スルモノナレハ別段ニ管財狀ヲ請求スルニ及ハサルカ如クナレトモ若シ妻死亡ノトキニ方リテ未タ夫ノ掌握ニ歸セサル訴訟產ヲ所有セルトキニハ管財狀ヲ請求スルヲ利益アリトス

夫カ婚姻ヨリ妻ノ財產ニ對シテ得ル所ノ權利ニ二様ノ別アリ第一ハ妻ノ財產上ニ完全ノ所有權ヲ得ルモノニシテ第二ハ代表者ノ資格ヲ以テ得ル所ノ所有權トス而シテ第一ノ完全ナル所有權ヲ得ル場合ニ

ハ該財産ニ對シテ債主ヨリ妻ノ受クヘキ凡テノ請求ヲ夫ニ於テ盡ス
ヘキ義務ナキモノトス然レトモ第二ノ代表者ノ資格ヲ以テ得ル所ノ
財産ハ妻ノ負債ヲ償却シタル後殘額アル時ノミ之ヲ所得スヘキ權ア
ルモノトス
英國ノ分配條例ニ依リ夫タル者ハ他人ヲ差置キ自ラ管財人タル權力
ヲ有スルノミナラス他人ノ管財狀ヲ得タル場合ニテモ總テ其管財處
分ヨリ得タル利益ハ夫ノ所得タルヘシ
夫妻ニ先チテ死亡シテ妻ノ動産未タ夫ノ掌握ニ歸セサルトキハ夫ノ
最近ノ親族ハ之ヲ得ルノ權ヲ有スルモノナリ
妻死亡シタル時ニハ夫ハ相當ノ儀式ヲ以テ之ヲ葬ル義務アレハ若シ
他人アリテ夫ニ代リ葬式ヲ營ミタルハ夫ハ他人ニ入費ヲ拂ハサル
ヘカラス素ト此等ノ事ハ無用ノ説明ナルカ如シト雖モ大ニ然ラズ蓋

シ英吉利法律ニテハ自分ノ爲スヘキコトヲ爲サ、ルトキ他人之ヲ爲
スモ其入費ヲ拂フ義務無キヲ原則トス例ヘハ余カ或人ニ對シテ若干
圓ノ負債アルヲ拂ハスシテ旅行シタルニ他人ハ留守中余ニ代リテ支
辨スルモ余ハ歸宅ノ後之ヲ轉辨スルノ義務ナシ何トナレハ他人ハ無
用ノ世話ヲ爲シタルモノニテ余ト或人トニハ如何ナル關係アルヲ知
ルヘカラス或ハ債主ハ余ニ義務ヲ釋放スルノ意アルヤ知ルヘカラス
又或ハ相殺スヘキ義務アリシヤ知ルヘカラサレハナリ併シ乍ラ佛蘭
西法律ニテハ正ニ之ト相反シ他人カ好意ヲ以テ事務ヲ管理シタルト
キハ其必用ノ費用ヲ辨濟セサルヘカラサルコトニ成リ居レリ然リ而
シテ妻ノ葬式ノ入費ヲ拂ハサルヘカラサルハ以上ノ原則ノ例外ナレ
ハ故ラニ説明ヲ要シタルモノナリ

前ニ述ヘタル妻ノ葬式ノ入費ハ縱令夫カ幼者タルト雖モ之ヲ拂ハ

夫死亡シ
タル後妻
ノ普通法
上ノ權利
及不能力

サルハカラス而シテ夫ハ葬送ヲ營ム義務アル代リニ妻ノ葬儀ニ關シ
テハ妻ノ父母ヨリモ重大ノ權力ヲ有スルモノトス例エハ妻カ死亡シ
タル時妻ノ親族ハ佛送ヲ以テ葬ラント云フモ夫ハ耶蘇教ノ式ヲ以テ
葬ルヲ得ルカ如シ或訴件ニ於テ妻ノ親碑石ヲ建設シタルヲ夫ニ於テ
之ヲ他所ニ移シ自ラ新ラタニ建碑シタル場合ニ於テ法律上犯權ノ行
爲ナキモノトセラレタリ

第八編 夫死亡シタル後妻ノ普通法上ノ權利及不能力ヲ論

ス

夫死亡シタルトキニ寡婦ハ夫ノ動産ニ對シテ管財ヲ爲スノ權アリ然
レトモ此場合ニ於テ裁判所ハ其見込ヲ以テ他人ニ管財狀ヲ下スコト
ヲ得ヘシ
英國ノ古キ條例ニ依レハ夫遺囑證書ヲ認メスシテ死亡シタル場合ニ

ハ其妻夫ノ動産中ヨリ其負債ヲ仕拂ヒ其殘額ノ三分ノ一ヲ所得スル
權アリ而シテ三分ノ二ハ亡夫ノ子孫又ハ亡夫ノ代表者ニ移轉スヘキ
モノトス妻ノ此權利ヲ通常三分一權ト名ク而シテ此權利ハ條例ニ基
クモノナルニ誤テ習慣法三分一權ト云ヘルハ古今學士ノ誤謬ナリト
ス

若シ夫子孫アラサル場合ニハ妻ハ二分ノ一ヲ所得シ他ノ二分ノ一ハ
夫ノ親戚ノ所得タルヘシ又夫親族アラサル場合ニテモ其全額ヲ得ル
能ハサルモノニシテ均シク二分ノ一ヲ得ルニ止マルノミ他ノ二分ノ
一ハ帝室ノ所得ニ歸ス之ニ依テ見ルモ夫妻ノ權利ノ不權衡ハ甚タ明
瞭ニシテ妻死亡スルトキハ夫ハ其動産ノ全額ヲ得ルト雖モ夫死亡シ
タル時ニハ妻ハ二分ノ一以上ヲ得ル能ハサルモノトス
以上ニ述ヘタル夫妻ノ權利ハ婚姻ノ際ニ於テ取結フ財産契約ヲ以テ

棄權スルコトヲ得ルモノナリ
米國ヴェルモン州ニ於テハ夫子孫アラスシテ其遺産二千弗^{ドル}ヲ超過
セサルトキハ妻ハ全額ヲ得ヘシ若シ二千弗ヲ超過シタル場合ニ於テ
ハ更ニ超過シタル全額ノ半額ヲ得ヘシ
マッサチ^コセツト州ニ於テハ若シ子孫アラスシテ遺産ノ額五千弗以下
ナルトキ全額ヲ所得シ一萬弗以上ナルトキハ超過ノ半額ヲ所得スヘ
シ
ニューヨーク州ニ於テハ若シ子孫又ハ兩親アラサルトキハ妻ハ二千
弗及ヒ該額ニ上ノ半額ヲ所得ス然レトモ若シ死亡者ニ甥姪ヨリ近キ
親族アラサトキハ全額ヲ所得ス
メリーラント州ニ於テハ場合ニ依リテ三分ノ一ヨリ二分ノ一マデノ
額ヲ所得スルモノトス

凡テ此等ノ州ニ於テ若シ寡婦又ハ親戚アラサルトキハ死亡者ノ遺産ハ都テ國庫ノ所得ニ歸ス然レトモ若シ寡婦ノミニテ他ノ親族アラサルトキハ寡婦ニ全額ヲ與フルヲ以テ通例トス

米國ノ或州ニ於テハ以上ノ權利ノ外寡婦ニ賑恤產ヲ與フルヲ以テ制度トセリ此賑恤產トハ裁判所ノ見込ヲ以テ寡婦及ヒ其子孫ノ爲メニ相當ナル金額ヲ遺產ヨリ引去リ之ヲ前ニ述ヘタル三分一權ノ外ニ與フルモノトス又寡婦アラサルモ幼年ノ子孫アルトキハ之ニ與フルモノトス而シテ此權利ハ一般債主ノ權利ヨリモ先取ノ權ヲ與ヘタルモノニシテ若シ死亡者其遺シタル財産甚タ僅少ナル時ニハ債主ニ對スルノ義務ヲ盡サハルモ尙ホ寡婦及ヒ其子孫ニ賑恤產ヲ與フルモノトス

妻ノ裝具トハ英國習慣法ニテ妻ノ身分ニ相當ナル衣服飾物其他手道

パラフアルナリヤ

アリ法鎖アリ以テ始メテ此稱ヲ下スコトハ己ニ拜承スル處ナリ果シテ然ラハ此合意アリ法鎖アルノ契約ヨリ又生スル法鎖オブリガシヨエキスコントラクチユトハ如何ナル場合ナルカ思フニ羅馬法律モ英吉利法律ト同シク原權即チ契約上ノ權利ヲ害セラレタルトキ該契約ヲ破毀シ更ニ損害ノ賠償ヲ要求スルノ權即チ第二ノ權利ニ相對スル義務ヲ意味スルカ教示ヲ仰ク

○英國刑法

問第一號 (第三号二十一丁)

東京本郷 清水 和太郎

〔單ニ企圖ノミニ止マラス〕ヨリ〔嚴刑ナキヲ以テナリ〕マテ今一層綿密ナル説明ヲ乞フ

問第二號 (第三號二十三丁)

〔配下ノ臣民カ君ヲ愛慕スルヨリ生スルヲ以テ〕云々トハ人民カ犯罪ヲ

爲スハ全ク君ヲ愛慕スルノ念ヨリ生スルト云フノ意カ抑茲ニ言フ生
スルハ何ヲ指シテ生スルト言フカ

問第三號 (第五號二十七丁)

〔惡意ノ存在行爲ニ現ハル、カ又ハ他ニ其存在ヲ證明スルモノアル場
合ニ限ルモノトス〕他ニ其存在ヲ證明スルノ場合如何例ヲ舉示シテ説
明ヲ乞フ

問第四號 (第七號三十六丁)

犯罪ノ當時人ヲ殺スノ所爲ハ〔中畧其責ヲ免カル能ハス〕此一項ニ就キ
左ノ疑團ヲ生セリ

- 一 犯罪ノ當時トハ精神錯亂シテ犯シタル時ヲ指定シタルモノナ
ルヤ
- 二 精神錯亂中ニ在テ人ヲ殺セハ法律ニ違反スルモノトノ思慮ヲ

萬國法律週報發行廣告 四號本月十七日出版

每週金曜日出版●一冊定價金四錢五厘●八冊豫約前金三十貳錢●十六冊同六拾錢●三十二冊前金壹圓八錢●六十四冊同壹圓九拾錢●但東京區外并各地方遞送ハ別ニ一冊ニ付郵稅壹錢宛申受ケ候●郵便切手代用ヲ禁ス

主筆 英吉利法律學校幹事兼講師 法學士 正七位 渡邊安積

今ヤ我日本帝國ハ條約改正ヲ決行シ全國ヲ開放シ外人ノ雜居ヲ許シ裁判權ヲ恢復シ内外人ヲ問ハス一律ニ我國法ヲ以テ之ヲ處セントス是レ實ニ我國ヲシテ文明國ノ列ニ加ヘ眞正獨立ノ一帝國タラシムル者ニシテ我國民タル者各應分ノ力ヲ出シテ以テ國家ニ盡スヘキノ期ハ抑モ今日ヨリ急且切ナルハナシ就中法律學ヲ以テ已レカ職トスル者ニ至リテハ須ク其技能ヲ盡シ一方ニ於テハ我國法律ノ改良ヲ補翼シ他ノ一方ニ於テハ同胞三千七百萬人ヲシテ法律上ノ智識ヲ涵養セシムルコトヲ勉メサルヘカラス法學士渡邊安積先生大ニ茲ニ慨スル所アリ英吉利法律學校諸氏ノ補助ヲ借り萬國法律週報ヲ發行シ以テ聊カ前述ノ本分ヲ盡サントスルノ舉アリ乃チ本店ニ於テ之ヲ發行シ廣ク國內ニ頒布セント欲ス

明治十九年十二月三日

萬國法律週報發行所

法律書店 錦水堂

○英船ノルマントン號 沈没ニ付
キ廣告

英國商船法 正 價

今般英船ノルマントン號沈没ニ付キ船
長ノ義務責任ニ關シ攷究ヲ要スル論ヲ
俟タス幸ニ法學士山田喜之助氏譯
述英國商船法ハ此事ヲ論スル最モ詳カナ
レハ有志者ノ一讀ヲ煩ス

英國私犯法三版 正 價

ノルマントン號沈没ニ付キ死者ノ遺族ヨ
リ民事私訴ヲ起シ損害賠償ヲ要求シ得ヘ
キトニ關シテハ 帝國大學法學協會
ニ於テハ英國カンブレル條例ニ於テ其權
アルトナ可決シタリ幸ニ英國私犯法增訂
第三版第二卷第六編ヲ精讀セラヨ又特ニ
第四百四十丁ヲ注意セラレヨ 山田先生
ハ蚤トニ此事ヲ確論セリ

東京々橋區三
十間堀壹丁目 九春堂

萬國法律週報廣告

今般萬國法律週報發兌候ニ付校
外生諸君ノ爲メ錦水堂ト特約ヲ
結ヒ八冊前金貳拾四錢ヲ以テ賣
渡シ候但シ東京區外ハ壹冊ニ付
郵税金壹錢ヲ申受ケ候

萬國法律週報第壹貳號出版セリ○第壹號
目次○法理學○私犯法○不完全義務ノ約
定○英吉利制定法撮要○判決例并註解○
英國狀師增島六一郎君「ノルマントン」號
事件ノ演說○攻法會記事○討論筆記○雜
件○第貳號目次○私犯法○判決例并註解
○非戶主子弟ノ財產權(山口正毅)○判事
登用試驗英國賣買法解釋(法學士高橋捨
六)○法學士江木衷君法學指針ノ演說○
討論筆記○雜件

英吉利法律學校

○第一科教課及受持講師姓名

第一學年

會社	證據	財產	賣買	法學通論	契約	私犯	親族	刑罰	代理	組合理	動產委託	合衆國法律	英國刑法	羅馬法	判決錄	理論	理財學	英語學
法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上
法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士
大谷木備一郎	岡村輝彦	增島六一郎	高橋捨六	山田喜之助	土方寧	奧田義人	山田喜之助	岡山兼吉	菊池武夫	松野貞一郎	元田肇	シンドモール	澁谷愷爾	渡邊安積	坪井九馬三	駒井重格	菅沼達吉	植原惟忠

第二學年

訴訟	行政	憲法	法律沿革論	分析法理學	法律牴觸論	破產法	財產法	英語學	訴訟演習	英國公法論	判決錄	合衆國法律	オース法理學	國際公法	保險法	治罪法	商船法	流通證書法
法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上	法全上
法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士	法學士
增島六一郎	江木衷	植村俊平	增島六一郎	山田喜之助	渡邊安積	增島六一郎	增島六一郎	菅沼達吉	渡邊安積	シンドモール	イーストレキ	關直彦	增島六一郎	植村俊平	伊藤悌治	木下廣次	高橋健三	土方寧

オース
チン氏
理學法
每週一
時間
法學士
關直彦

日本法令
全上
米國法律學士金子堅太郎

立法學
全上
法科大學卒業生植村俊平

合衆國法律
全上
米國法律學士シドモール

萬國公法論
隔週
博言博士イーストレイキ

動產差押法
一回
ばりすとのリツチファイルド

訴訟演習
每週一回
二時間乃至三時間

英語學
每日
一時間
理學士
高須祿郎

卒業論文
科外講義
米國法律學士
グレートハウス

會社法
米國法律學士
高橋健三

成法理論
米國法律學士
小村壽太郎

臨時講義
法學士
合川正道

臨時講義
法學士
合川正道

○第二科教授受持講師姓名

第一學年

スミス氏
ばりすとの
法學士
増島六一郎

アソソン氏
法學士
土方寧

契約法
法學士
奥田義人

私犯法
法學士
澁谷慥爾

ブルーム氏
英法註釋
法學士
山田喜之助

ブラックストーン氏
英法註釋
法學士
渡邊安積

ストリー氏
一代理法
法學士
山田喜之助

ベンジャミン氏
一賣買法
法學士
高橋捨六

ウイリヤム氏
一不動產法
法學士
元田肇

スチーベン氏
一證據法
法學士
渡邊安積

パイル氏
一流通證書法
法學士
土方寧

ボロツク氏
一會社法
法學士
奥田義人

ウールシー氏
一國際公法
法學士
岡山兼吉

ホルランド氏
一法理學
法學士
江木衷

第二學年

破產法
ばりすとの
法學士
増島六一郎

ウエストレーキ氏
一法律抵觸論
法學士
渡邊安積

ホルランド氏
一法理學
法學士
江木衷

一 法律沿革論
マイン氏
アモス氏

高橋健三

一 憲法
スネル氏

伊藤悌治

一 衡平法
米國
法律學士

小村壽太郎

右之通り改定候也

明治十九年十月
東京神田錦町貳丁目貳番地
英吉利法律學校

英吉利法律學校規則援抄
第七章 校外生規則

第一款 講義錄

第三十八條 通則 遠隔ノ地方ニ在リ又ハ業務ノ爲メ參校シテ親シク講義ヲ聽ク能ハサルモノ、便ナ計リ校外生ノ制ヲ設ケ

本校講師講義ノ筆記ヲ印刷シテ之ヲ頒ツ

第三十九條 種類 講義錄ハ第一級講義

錄第二級講義錄第三級講義錄ノ三種ト

ス但第三級講義錄ハ明治二十年九月ヨリ之ヲ出版ス

第四十條 出版日 第一級講義錄ハ毎土曜日ニ發兌シ第二級講義錄ハ毎水曜日

ニ之ヲ發兌ス 第四十一條 紙數 講義錄ハ都テ一冊ノ紙數九十一「ページ」ヲ限リトス

第四十二條 記載事件 講義錄ハ講義ヲ記載スルノ外本校ノ記事及廣告類ヲ記載スルモノトス

第二款 校外生入學在學規則

第四十三條 通則 何人ニ限ラス本規則ニ從ヒ校外生タラント欲スルモノハ試驗ヲ要セス何時ニテモ入學ヲ許ス

第四十四條 教科及修業年限 教科及修業年限ハ校内生ニ同シ

第四十五條 講義錄配付 校外生ニハ每週一回英吉利法律講義錄ヲ配付スヘシ

第四十六條 證書 校外生ニシテ就學證書又ハ卒業證書ヲ受ケント欲スルモノハ望

ニ依リ試驗ノ上之ヲ授與スヘシ

第四十七條 入學手續 校外生タラント欲スルモノハ其氏名、族籍住所、年齢ヲ記シタル入學證ニ束修並一ヶ月分月謝ヲ添ヘ申込ムヘシ

第四十八條 校外生入學證

第一款 何年級校外生入學證

私儀令般貴校へ入學御許可相成候上ハ在學中御規則堅ク相守可申候仍テ證書如斯候也

宿所族籍

年月日

姓

名印

年齢

英吉利法律學校御中

第四十九條東修 校外生ハ東修金五拾錢

ヲ納ムヘシ 第五十條月謝 校外生ハ毎月翌月分ノ月

謝金七拾錢ヲ納ムヘシ 但前納セサルモノハ講義録ノ配付ヲ

見合スヘシ 第五十一條増金 將來印刷費遞送費等増

加スルトキハ豫メ通知シテ相當ノ増金ヲ 納メシムルコトアルヘシ

第五十二條月謝金不返付 既ニ受領シタ

ル月謝金ハ假令本人ノ都合ニヨリテ退學

スト雖之ヲ返付セス 第五十三條住所通知 住所ヲ轉シ又ハ氏

名ヲ改稱スルモノハ速ニ本校講義録掛ヘ

通知スヘシ 第五十四條月謝金遲滯 月謝金不納ニケ

月以上ニ及フトキハ退校生ト見做スヘシ

故ニ再送本ヲ請フモノハ更ニ入學ノ手續

ヲ爲サシムヘシ 第五十五條月謝金送付手續 月謝金ヲ爲

替トシテ送致スルモノハ東京神田區錦町

二丁目二番地英吉利法律學校會計岡山兼

吉ヘ宛東京神田郵便局ヘ向ケ振込ムヘシ

第五十六條同上 月謝金ハ郵便切手ヲ以

通運會社ニ托シ貨幣ヲ送致スルモノハ配

達料一錢ヲ添ヘ拂込ムヘシ 第三款 校外生質問規則

第五十七條通則 本校々外生講義録ニ登

載スル諸課目ニ限り疑問アルトキハ通信

ヲ以テ之ヲ質スコトヲ得但擬律擬判ノ問

ハ一切答案ヲ付セサルモノトス 第五十八條質問信書ハ講義

録ノ號數(合本ニ爲シタルタメ號數ノ見 出シ難キトキハ此限ニアラス)課目丁

數ヲ示シ疑問ノ要點ヲ明瞭ニ記載スヘシ

第五十九條答案 凡質問ハ質問委員ニ於

テ其難易ヲ判別シ主旨自ラ明瞭ナリト認

ムルモノ若クハ質問通信ノ文意了解シ難

キモノハ答案ヲ付セサルヘシ 第六十條問答記載 質問及答案ハ時々講

義録ノ紙尾ニ登錄スヘシ 第六十一條質問信書名宛 質問信書ハ本

校質問委員ニ宛テ郵送スヘシ ○教課目中從來亞米利加法律ト稱シタル

○ 正 誤

私犯法二十二頁六行ノ末「得ベキ」ハ「得ベ

カラザル」ノ誤ナリ

法學士高橋捨六先生著

英米身分法

洋製美本全一冊
定價九拾錢

十二月廿五日發兌

身分法といふ親族法とも稱し婚姻離婚を始め夫婦親子後見人及び主人奴僕等に關する法理を網羅詳論せるものなり殊に本書は高橋先生一に專修學校の教科用に供せんが爲め汎く英米の法典を參照し章を分て節とし節を分て則とし專はら簡易明解を主とせられたる著述なれり恰も一部の法典を見るに異ならず故に法律に志すの人は勿論苟も親たり夫妻たり後見人たる身分ある人は熟讀し賜ふべき良書たり尙購讀書諸君の便宜を計り目錄書并に見本を調製し置たれば左店の中へ貳錢郵券寄送次第進呈す

神田區表神保町一番地角

英吉利法律學校
教科書賣捌所

錦水堂

銀座三丁目

發賣所

博聞社

○校外生諸君ニ廣告

本年出版分ノ講義錄ハ當第拾五號ヲ以テ終結セリ明年第一土曜日ヨリ引續キ第拾六號以下ヲ發兌ス可シ然ルニ校則ニ由リ本月二十六日ヨリ來年一月六日マテ冬季休業ナレハ第拾七號以下ハ少々發兌期日相後ルヤモ計リ難ケレトモ講義錄ハ絶ヘス出版シ以後校正印刷其他製本等ニ至ルマテ一層ノ注意ヲ加ヘ一冊ノ紙數ハ八十頁ニ下ラサル様精々勉強致ス可シ此旨諸君ニ告ク

一年級講義錄

明治十九年
十二月廿五日

編輯掛

20131026

法學士渡邊安積講義

アンソ 氏契約法 第十五編 定價金拾錢 郵税金貳錢

第一、四、六、七、八、九、十一編ハ各八錢ツ、
第二、三、五、十、十二、十三編ハ各拾錢ツ、
アンソ 氏契約法ハ英吉利契約書中最モ
新シク最モ精覈ノモノニシテ英國大學校
我帝國法科大學及英吉利法律學校等ニ於
テ教課書トナス者ナリ本書ハ慣習法衡平
法制定條例等ノ中ヨリ契約ニ關スル規則
ハ悉ク網羅シ英國現行法ハ一モ洩ス所ナ
シ●本書ハ先キニ出版ニ着手シタル以來
大ニ江湖諸君ノ愛讀ヲ辱シ許多ノ冊數ヲ
賣盡シタルニ不幸ニモ講義者事故アリテ
久シク中絶ノ姿ニ相成リ愛讀諸君ヨリ頻
リニ督促ヲ蒙リ恐縮ノ至リニ堪ヘス然ル
ニ今日ヨリ再ヒ舊業ヲ繼キ續々殘編ヲ出
版シ速ニ竣功スルコトヲ期スヘシ
但初編ヨリ御入用ノ御方ヘハ全部取揃ヘ
差出可申候

神田區神保町一番地
錦水堂

THE IGIRISU HORISU
GAKKO TEXT-BOOK 英文法

第一、二、三、四號出版セリ●第一號目次○
ブラツクストン氏英法註釋○スミス氏
商法○スミス氏訴訟法●第二號目次ブラ
ツクストン氏英法註釋○マークビー氏
法律論綱○アンダーヒル氏私犯法○アン
ソン氏契約法●第三號目次○アンダーヒ
ル氏私犯法○アンソン氏契約法○ブル
ム氏英法註釋○スミス氏商法
第四號目次○アンダーヒル氏私犯法○ア
ンソン氏契約法○スミス氏訴訟法○ブル
ム氏英法註釋

神田錦町 神田小川町通
英吉利法律學校 錦水堂

明治十九年十二月廿五日 (定價金貳拾錢)

持主 增島六郎
印刷人 大谷木備一郎
編輯人 澁谷慥爾
發行所 神田錦町貳丁目貳番地
英吉利法律學校